

金 光 学 園

やっ な ゐ

2025.3



270号



卒業式



高2 芸術選択者発表会



「学習の本質」

本年度、創立百三十周年まことにめでとうございます。私も昨春秋に式典に出席させて頂きましたが改めて歴史の重みと卒業生、在校生の学園に対する愛校心を感じると共に、本当に子どもをこの学校に通わせてよかったなと感慨深い心境になりました。

さて、本年度副会長の役職を授かり、機会を頂きましたので、勉強してこなかった私がこんな事書いても説得力がないのですが、自分への戒めも含めて今回は『学習』について私なりに考えてみました。学習と聞くと学生の皆様は学校の勉強を思い浮かべると思いますが、私たちはなぜ学習が必要なのでしょう？ 学校の勉強には答えがある事が大半ですが、いざ社会に出ると実は答えがない事が多く、そのことに対して判断や決断をしなければなりません。そして、時には、その判断や決断で人生が大きく左右されることがあるかもしれません。実はその判断や決断をする時に思考の軸になるのが、今まで培った経験や過去の学習になってくるのではないのでしょうか？

渡邊 将弘

まずは継続的な学習を行い一つ一つの知識の量を増やしていきます。断片的な知識のみならず様々な知識が結合して知恵に変わる時の脳の心地よさは、とても気持ちがいいものです。そして、学習の中で大事なことは、自分なりの答えを導き出すプロセスや判断や決断に至ったプロセスを振り返り分析する事だと思っています。私も含め多くに人は親から勉強しなさいと言われてその度に嫌な思いをしてきたと思いますが、学校の勉強も答えだけにフォーカスするのではなく、少し視点を変えてみて答えを導き出すプロセスにフォーカスすると案外勉強も楽しいものなのです。ときには苦手な教科や取り組みたくない事もあるかもしれませんが、完全に逃げる事が出来ないなら人生の修行だと思わなければいけません。学習はスポーツやゲームにもあてはまります。スポーツにおいても継続的な基礎の練習や下半身の強化が土台となって、そこから一つ一つの技を磨き習得した技を結合させて高度な技術に変えていきます。技術や体力は競技においてこの勝利に繋がります。ゲームにおいてもドラクエを例にすると、旅の仲間と協力してこつこつとお金と経験値を貯め強い武器や防具、呪文を覚えることで戦闘の幅が広がり、今まで勝てなかったボスキャラが嘘のように勝てるようになります。ストーリーを進行することが出来ます。

学習もスポーツもゲームも短期間では強化できません。話は少し逸れてしまいましたが、老若男女を問わずより良い未来を切り開くために継続的な学習を続けて参りましょう。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

目次

巻頭言.....	1
第77回高校卒業式.....	2
道.....	30
メタセコイア.....	33
活躍おめでとう.....	34
活躍する卒業生 西牧 世博.....	36
学園随想(83).....	38
やつなみ保護者会のページ.....	40
会報.....	44
「魅力ある学園となるための学校評価」 実施の御礼とご報告.....	45
国際交流活動報告.....	48
ある日のホームルーム.....	50
中学体育会.....	52
生徒会活動.....	55
入賞おめでとう.....	59
学園だより.....	60
教室の窓から・編集後記.....	62

第77回高校卒業式

式 辞

校長 金光 道晴



2月になり、立春を迎えると同時に、大変強い寒波がそれも長期間にわたって二度も到来し、今週の初めまで、毎日のように各地で積雪などによる交通麻痺や事故のニュースが報道されていましたが、ここ岡山は晴れの国と言われるように、特に県南では寒い日は続きましたが、雪

などの被害はほとんどありませんでした。ここ数日は少し寒さも緩み、今日は暖かい朝になり、明日・明後日の土日の日は3月や4月並みの陽気になるところもあるとのことです。このような早春の穏やかな良き日に、第77回の高等学校卒業式を麗しく挙行できますことは、誠にありがたいことです。

ご来賓の皆様には、公私ともにご多用の中を早朝よりご臨席賜り、誠にありがとうございます。平素から学園教育にご協力とお祈り添えを頂いておりますことに、心から御礼を申し上げます。

保護者の皆様にお祝いとお礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございます。18年前に、ご両親の大きな感動の中で、産声をあげたお子様はこのように立派に成長され、今日の高等学校卒業の日を迎えられました。

改めまして入学以来、学園教育の全て

卒業式の概要

2月27日朝8時、卒業生166名は、金光教本部前に学園生徒として最後の参拝をし、川崎有生さんが代表で卒業のお礼と新しい生活に向けての決意をお届けした。

翌28日、第1部の式は、ほつま体育館にて9時30分に開式。国歌斉唱の後、各クラス担任より卒業生が紹介され、金光道晴校長より総代の城戸直之さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、田淵美賀雄理事長より記念品として金光教経典抄「天地は語る」と四代金光様のお筆になる「学園の合言葉」の色紙が総代の高橋真菜さんに贈られた。さらに、橋本美智雄金光教教務総長の挨拶、渡辺知典県議会議員

にわたりまして、今日までいただいております。温かいご理解と格別のご協力に御礼を申し上げますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、166名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。昨日は今日の卒業式に先立ち、皆さんと一緒に、学園生として最後の金光教本部に参拝をさせて頂き、川崎有生君が代表して、ここまで成長させていただいたことの御礼とここからの願いを教主金光様に次のようにお届をいたしました。

「私達金光学園高等学校3年生166名は、明日28日に卒業式を迎えさせていただきます。私達が入学してからの3年ないし6年間、金光様のお祈り添えを頂き、充実した学園生活を送ることが出来ました。また家族や友人、先生方など、多くの人に支えられ、沢山の経験を通して、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

これから私達は、それぞれ新しい道を歩んでいきます。今までと異なる環境での生活への期待とともに、不安もあります。しかし、金光学園の合言葉『人をたいせつに』の精神を忘れずに、これからの

生活をより良いものにしていきたいと思っています。今後ともお祈り添えくださいますよう、よろしくお祈り申し上げます。本当にありがとうございます」というものでありました。

それに対し教主様からは「われわれは、生活のすべての上で、常にあらゆる人々もののお世話になっていきます。お世話になるすべてに礼を言う、感謝の心を土台にして、ここから先、それぞれの願いに沿っておかけを頂かれますよう、お祈りいたします。卒業おめでとうございます」とのお言葉をいただきました。そして先程は卒業証書をいただかれ、めでたく高等学校第77回卒業生になられたのであります。誠にありがとうございます。

さて、皆さんにとつての3年ないし6年間の学園生活はどうだったでしょうか。皆さんが中学1年生の冬からコロナ感染が広がり、中学生活はもとより高校になってもそれが続きましたが、高2になつてからは、コロナも5類に引き下げられましたので、色々な活動が出来るようになりました。

勉強や部活動や様々な学校行事も元のように行うことができるようになりました。

の祝辞、送辞（西山和志さん）、答辞（山本伊織さん）と続き、最後に「金光学園歌」斉唱で第1部は閉会した。

第2部の祝賀の会は、引き続きほつま体育館で行われた。高43回卒業の柚木道義衆議院議員からお祝いの言葉の後、ほつま同窓会副会長守永一彦氏から同窓会入会の歓迎の言葉を頂いた。

次に、卒業生保護者代表恵合理枝氏より記念品目録（高校棟トイレウォッシュレット一式）の贈呈が行われ、続いて卒業生保護者代表中川啓氏より謝辞が述べられ、琉球民謡グループ「ゆいなぐ」による「島人ぬ宝」の歌が贈られた。そして学園生活の3年間を振り返る「あしあと」が森下美穂先生、土谷香奈子先生、小松原悠希先生の司会のもと、高3学年団を中心上演された。終わりに卒業生代表の籠崎なすなさん、学校代表の横山俊則副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、卒業生による高3学年団への花束贈呈と合唱の後、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。

たので、きっと充実した高校生活が送れたのではないかと思っています。

また今年度は創立130年という記念の年でありましたが、皆さんはその歴史と伝統をしっかり受け継ぎ、後輩たちに繋いでいってくれたと確信しています。私はそんな皆さんに週に一回ではありましたが、宗教の時間で色々な話を聞いてもらいました。今日の卒業式は最後の学園教育の場として、また最後の宗教の時間のつもりでお話をさせていただいています。が、改めて「あいよかけよ」という学園歌の3番の冒頭にある言葉を皆さんに送らせていただこうと思います。

この言葉は、本来金光教の神と人間との関係を表すことばで、「神あつての人あつての神『あいよかけよ』で立ち行く」という神と人との相互の関係を表していますが、さらに親子の関係をはじめ、人と人の関係や人と物の関係にまで広げて考えられています。

人間は一人で生きているわけではありません。「親は子あつての親」であり、「子は親あつての子」であります。夫婦、兄弟姉妹、友達、先生と生徒など全て、互いに関わりあつて成り立っているものば

かりであります。相手の存在と無関係に自分だけが存在しているということはありえないのであります。人は共に生き、生かし合い、働きあい、影響しあい、支え合つて生きているのであります。

ところが、その「あいよかけよ」の関係を持ち続け、忘れないでいることは大変難しいことでもあります。家族関係でも職場や学校などでの人間関係でも、「あいよかけよ」の関係が失われると、様々な問題が起こってきます。国と国との関係においても、「あいよかけよ」の関係が失われると様々な問題が起こってきます。

ロシアとウクライナ、イスラエルとガザ地区ハマスとの戦争では、すでに何万人、何十万人の人の命が失われていると言われていますが、いまだに和平への道は見えていません。

私たち、全ての人間は、この天地の大いなる働きや恵みの中で生かされて生きているのですが、そのことに気づかず、相手の存在を大切に考えることが出来なくなり、人間中心、自己中心、あるいは自国中心に物事を考えることによって、一層問題を深刻化させ、解決を困難にさせています。

人と人、国と国の関係においても環境問題などにおいてもそうであります。全てが「あいよかけよ」の関係で成り立っていることを忘れ、自分中心にものごとを考えることによって、問題が起こってくるのであります。

全ての物は、自然の大きな恩恵、天地の恵みの中で生かされ、つくられたものであり、食べ物でも、着るものでも、道具や機械でも、多くの人々の働きによってできあがつたものばかりなのです。

共に育ち、共に歩み、共に生きる生き方を大切にしていただきたいと思います。うのであります。今日は学園歌の3番は歌いませんが、3番は「あいよかけよの道立ちて 平和は人の世にあらん」が始まります。私は全ての問題の解決の鍵はここに示されていると思っています。「あいよかけよ」の関係をしっかりと持つことこそ、今の社会にもっとも必要なことではないかと思うのであります。

またこの関係を大切にすることは、とりも直さず、金光学園の合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」を実践していくことに他ならないと思います。



渡辺知典 岡山県議会議員



橋本美智雄 金光教教務総長

皆さんは今日この学び舎を巣立ち、大学や社会に出て行くわけですが、これからの生活は、これまでのようないつも温かい支援や援助のあるものではないかもしれません。困難なことにぶつかった時、一人で抱え込むのではなく、家族や友人など多くの人たちに祈られ、支えられていることを忘れないで下さい。

そして、どうぞ卒業してからも「あいよかけよ」の心、「合言葉」の精神をいつまでも大切に、そしてご両親を通して賜った尊い命を大切にし、その命を輝かせて進んでいくください。皆さんの御健勝とご多幸、そしてご活躍を心からお祈りし、式辞といたします。

送 辞

在校生代表 西山 和志

やわらかな日差しの中に、ほのかな春の香りが漂う季節となりました。本日、晴れて金光学園高等学校卒業式を迎えられた皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩たちの心の中では、修学旅行や部



活動、そして友達との何気ない会話までもが思い思い出となって駆け巡っていることと思います。先輩方と過ごした日々を振り返ると、様々な思い出が蘇ってきます。

学校行事において、先輩方は大きな存在を示してくださいました。ほつま祭では、高校2年生の時に全クラスで演劇に取り組まれました。先輩たちの豊かな表現力や熱量に圧倒されるとともに、クラス全員で一つの作品を作り上げることが楽しんでおられる様子に感動を覚えしました。また、高校3年生の時には有志によるバザーが行われました。地域のお店とコラボして販売した商品は、早々に売り切れが出るほどの盛況でした。高校生活最後の体育会では、綱引きや30人31

脚などの競技で先輩方の団結力の強さを見せつけられました。同時に仲間を全力で応援する声、あの猛烈な暑さを吹き飛ばすほどグラウンド中に響き渡ったことが、私たちの胸に焼き付いています。

部活動においても、先輩方は、多くの輝かしい成績を残されました。運動部では、バレーボール部がインターハイ、春の高校バレーボール大会に2年連続で出場されました。全日本高校選抜や2024年度男子ユニバ若手有望強化合宿でセルビア遠征に参加されている先輩もいらつしやいます。また、少林寺拳法部がインターハイに3年連続で出場、卓球部は全国高校選抜大会に出場し、活躍されました。柔道部は、中国大会に出場されました。野球部は第106回全国高等学校野球選手権岡山大会で5年ぶりのベスト4になりました。先輩方が学年一丸となって応援されていた姿が今も印象に残っています。

文化部では、音楽部コーラスが、国際声楽コンクール全国大会に出場し、入賞されました。どの部活動においても、技術を高めるだけでなく、他者に気を配り、部が一体となるよう努力される先輩方の

姿を私たちは間近で見ました。そんな先輩に近づけるよう、これからも日々の練習に取り組んでいきます。

さて、社会に目を向けてみると、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ紛争など、不安定な情勢が続いています。今、この瞬間も私たちと同年代の若者が兵士として志願し戦っています。そのような中、「日本原水爆被害者団体協議会」がノーベル平和賞を受賞したことは印象深い出来事でした。被爆という恐ろしい体験をした日本人として、平和の大切さを訴え続け、戦争の記憶が風化しないように、未来につなこうとする彼らの前向きな姿勢が世界に認められた瞬間でした。私たちが中学2年生の時に訪れた広島で、被爆体験者である新井さんが、「核戦争が起こったら勝者はいない。全員負ける。」と、苦しさや悔しさをにじませながら、核廃絶を訴えられたことを思い出しました。

私たちの日常は、先人たちの「今」の積み重ねの上に成り立っています。そして私たちの「今」が未来の「今」に繋がります。その責任を自覚し、平和で明るい世界を実現させることが私たちの責務

であると思います。

先輩方は、コロナ禍で様々な苦難を強いられました。悔しいこと、苦しいこと、辛いことが沢山あったと思います。しかし、その経験さえも糧にし、進んで来られた先輩方なら、これからの日本を担うのにふさわしい存在になって下さると信じています。私たちも先輩方から受け継いだ多くのことを後輩達に伝えていきます。私たちを導いてくださった先輩方と過ごした日常も、今日で終わりを迎えます。皆さんが卒業された後、私たちは、学校のいたるところに先輩方の面影を見つけては寂しさを感じるでしょう。

「別れ」は「出合い」がなければ、生まれません。今改めて先輩方との「出合い」の素晴らしさを実感すると共に、感謝の気持ちでいっぱいです。先輩方はこの130年という金光学園の歴史の節目となる年に名を刻む卒業生になります。これから先輩方は、新しい世界での新しい「出合い」を通して、それぞれの夢に向かって着実に歩みを進めてゆかれることと思います。その歩みの中で、時には困難にぶつかることがあるかもしれませんが。そのような時は、金光学園生として過ごし

た3年ないし6年を思い出してみてください。ここで得たかけがえのない仲間の存在やさまざまなことに懸命に取り組んだという自信が、どんな困難も乗り越えられる力となって皆さんの背中を押してくれるはずです。これからは先輩方が信じる道を進み、それぞれの夢を実現してください。

最後になりましたが卒業生の皆様の益々のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

答 辞

卒業生代表 山本 伊織



暖かい陽の光が少しずつ降り注ぎ、春の訪れを感じる季節となりました。この

ような良き日に私達卒業生のために厳粛で盛大な式を挙行してくださり誠にありがとうございました。またご多忙の中ご臨席くださいました皆様に卒業生一同心より御礼申し上げます。思い出せば3年ないし6年前、真新しい制服に身を包み、これから始まる学園生活に胸を躍らせ、新たな一歩を踏み出した日が今でも鮮明に思い出されます。

3年を振り返ってみると、たくさんの思い出で溢れています。コロナ禍で始まった高校生活、熱中症警戒アラートが発表されるほどの暑さの中で行われた体育会など多くの困難がありました。その団結力を発揮し、たくさんの方がそれぞれの舞台で活躍しました。特に昨年の夏の高校野球選手権大会で硬式野球部が5年ぶりに県ベスト4まで勝ち上がったことはもちろんのこと、何よりも学年全体で応援したことがとても記憶に残っています。例年の吹奏楽部、ダンス部だけでなく他の生徒も球場や学校でのパブリックビューイングで活躍を見守り、試合の前には教室や廊下で「頑張つて」試合のあとは「お疲れ様」と声を掛け合っ



いました。他にも全国ベスト16となった春高バレーや少林寺拳法部のインターハイなどでも、仲間の活躍を心から応援し、励まし合える関係性は簡単に築き上げられるものではありません。私達一人ひとりが誇ることのできる学年の強みだと思っています。

また、様々な困難に直面したときも、積極的に仲間と解決策を考え、実行し、

反省し、改善することで多くの壁を乗り越えてきました。「積極性」を意識して行動する内に、人とのつながりを感じ、周りの人のために思いやりを持って行動することで、自分自身の人間性を高めるきっかけを作ることができたと感じています。

そのように切磋琢磨しながら、学園生活を共にした同級生の仲間。廊下が静かな日がないほど賑やかで、個性豊かで優しいみんなのことが大好きです。行事や勉強、部活動で互いに助け合い、高め合うことのできる大切な仲間に出会えたことに本当に感謝しています。これからは仲間と離れ、それぞれの夢に向かって別々の道へ進むことになり、不安でいっぱいかもしれませんが、きっと大丈夫です。もし不安で押しつぶされそうになっても必ず学園生活でできた仲間が助けてくれるはずです。卒業してもずっと、助け合い、高め合える仲間であってください。

在校生の皆さん。高校生活はあっという間です。一日一日を大切に、興味のあることに物怖じせず挑戦してください。それが他人に認められなくても、不可能だと言われても、自分を信じて進み続け

てください。少しの勇気で人生は変わります。高校生だからできること、金光学園だからできること、自分だからできること。それぞれの強みを活かして後悔のない学園生活を送ってほしいです。心から応援しています。

今日までご指導くださった先生方。きつと手のかかる学年だったと思います。それでも、私達の将来のために、ときに厳しく、そして家族のような暖かい雰囲気、言葉で一人ひとりに向き合い続けてくださった先生方には感謝してもしきれません。先生方から学んだことをこれからの人生に活かし、それぞれの道で成長していきます。いつか胸を張って立派な姿をお見せしたいと思います。楽しみに待っていてください。

そして最後に、何より私達を一番近くで見守り、応援してくれた家族に感謝の気持ちを伝えさせてください。毎日のお弁当も、きれいに洗濯された制服も、当たり前のように当たり前ではないこと、それには家族の目一杯の愛情が詰まっていること、私達はちゃんと気づいています。反抗したこともたくさんあったけれど、それでもずっと一番の味方であって

れてありがとう。もらった 恩は大きすぎるけれど、いつかその恩を少しでも多く返せるように頑張ります。

ここで、昨年11月に亡くなられた詩人の谷川俊太郎さんの『ありがとう』という詩を紹介いたします。

空 ありがとう
今日も私の上においてくれて
曇っていてもわかるよ
宇宙へと青くひろがっているのが

花 ありがとう
今日も咲いてくれて
明日は散ってしまうかもしれない
でも匂いも色ももう私の一部

おかあさんありがとう
私を生んでくれて
口に出すのは照れくさいから
一度つきりしか言わないけれど

でも誰だろう 何だろう
私に私をくれたのは
限らない世界に向かって私は呟く
私 ありがとう

私の今の気持ちはこの詩に集約されています。私達が充実した高校生活を過ごすことができたのは、たくさんのお会いがあったからこそです。私達を支えてくれた先生方、友人達、家族に感謝の気持ちを伝えたいです。そして何よりもここまで成長できたのは自分がいたからです。自分自身に「ありがとう」と言える日々を過ごせたことが私にとつての宝物です。本日をもって私は金光学園を卒業します。思い出したいの学園を旅立つことは名残惜しいですが、前を向いて笑顔で終わらしましょう。悲しい別れではありません。金光学園はいつまでも私達の大切な場所、帰れる場所であり続けます。3年間、そして6年間ありがとう。「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という合言葉と、学園生としての誇りを胸に刻み、これからの日々を過ごしていきたいと思っています。



答辞・送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員会◇

高3 佐伯 遥斗 中川 琥心
三宅 主晃 伊藤 璃虹
瀬尾 稀俊 竹内 煌瑛
山本 伊織 田頭 航平

◇送辞起草委員会◇

高2 桑原 惟吹 田頭 謙真
三宅 悠斗 香西 和佳
坂本 万莉 生藤 遼真
川瀬 央太郎 佐藤 太朗
西山 和志 藤村 美友
山崎 心愛
高1 佐藤 凜平 青木 英味
能倉 駿 能宋 智
坪井 里都

贈る言葉

歩け 自分の道を

天野 浩美

3年前、初めて学年主任という大役を仰せつかった私は、皆さんの前で「みんなのお母さんになる」と宣言しました。実際、皆さんの一つ上の息子を持つ私にとって、本当に我が子に対してと同じように苛立ったり、腹を立てたり、そして心から喜びを感じたりした3年間でした。生徒のアンケートで「ねちねちと嫌味を言うのはやめて」と書かれた時は、申し訳ないと思いつつ、逆に私も自分の母親のように思われているのかなと思ったりもしました。

私が国語教師となって25年が過ぎましたが、国語の授業では文章を読解したり、登場人物の心情を追体験したりするのはもちろんですが、生徒自身の生きる上での糧になるような何かを、今すぐでなくても何年後、何十年後でも構わないので、皆さんに与えることができればこんなに嬉しいことはないと思っています。今年

は、大学受験を控え、問題演習に追われるばかりの授業で、じつくりと作品を味わうということもできず残念でしたが、少しでも、その問題集の文章の中で提起されていた問題に興味を持ったり、登場人物のセリフや引用されていた詩・偉人の言葉の断片が心に残ったりしていたら、嬉しいなと思います。

その問題演習で、詩人高村光太郎と妻智恵子の物語を扱った際、高村光太郎の詩『道程』に言及したところ、きょんとした人もいたので、ぜひこの素敵な詩を皆さんに贈りたいと思います。現在よく知られている詩は、当初発表された詩を短くしたもので、もともとは一〇二行に渡る長詩でした。全部とはいかないので、その詩の最後の部分を紹介します。

あ

人類の道程は遠い

そして其の大道はない

自然の子供等が全身の力で拓いて行か

ねばならないのだ
歩け、歩け

どんなものが出て来ても乗り越えて歩け
この光り輝く風景の中に踏み込んでゆけ
僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

ああ、父よ

僕を一人立ちにさせた父よ

僕から目を離さないで守ることをせよ
常に父の気魄を僕に充たせよ
この遠い道程のため

歩け！ 歩け！ これから始まるみんなの道を。みんなの母は、みんなが気魄を充たして力強く歩いていく姿をいつまでも見守っています。卒業おめでとう。

百年は一瞬にすぎない

石田 崇彦

ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした3年はあつという間でした。石田といえば「吉田松陰先生」と思う人

は少なからずいると思います。やはり最後も松陰先生の言葉を贈りたいと思います。吉田松陰先生は幕末期、長州藩（現在の山口県）に松下村塾という私塾を開いて海外列強からの国防を説いた人物です。高杉晋作や桂小五郎、伊藤博文といった、後に明治維新のリーダーとなる人々に大きな影響を与えました。

百年一瞬耳 君子勿素餐

この漢詩（一部）は明治維新の10年前の安政5（1858）年、門下生の一人である山田顕義が14歳で元服した際、扇に書いて贈ったもので、松陰先生が大切にされた「志」を立てるための心構えを説いたものです。「百年は一瞬のみ 君子粗餐する勿れ」志を立てるためには人と異なることを恐れてはならない。世俗の意見に惑わされてはいけない。死んだ後の業苦を思いわずらうな。また目前の安楽は一時しのぎと知れ。百年の時は一瞬にすぎない。君たちはどうかいたずらに時を過ごすことのないように。元服とは武士社会で一人前の大人として認められることです。松陰は、大人として巣立っていく教え子に激励の気持ちを込めてこの詩を贈ったのです。人と異なるこ



とを恐れずに高い志を立てよ、人生は短いだから。当時と時代も違い、少し大げさだなと感じる人もいるとは思いますが、3年があつという間だったように、本当にここからの人生もあつという間に過ぎ去っていきます。一日一日を大切に、自分自身を高めていくために失敗を恐れずいろいろなことにチャレンジしてください。その経験が多ければ多いほど人として成長します。卒業後、一回りも二回

りも成長した姿を見せてください。最後に、もしよろしければ授業で学んだ神社仏閣・世界遺産などを訪ねてみてほしいなと思います。実際に自分の目で見て感じたことは一生の思い出（宝物）となります。その時、訪れた場所のパンフレットを入手し、石田まで届けてくださいね。よろしく願います。

優しい心で人を包もう

山下 真儀

みなさん、ご卒業おめでとうございます。3年間の高校生活を振り返ると、それぞれの成長が本心に眩しく、こうして送り出せることを誇りに思います。みなさんと出会ったのは高校2年生の時でした。最初は、少し不安げだったみなさんが、今では自信に満ちた表情で未来へ向かおうとしている姿を見ると、心から嬉しく思います。みなさんと過ごした時間は、私にとってもかけがえのない宝物です。高校生活の中で、みなさんは多くのことを学んできました。授業で培った知識だけでなく、友人や先生との関わりの中で、思いやりの大切さや努力の尊さを実感する機会もあったことでしょう。部活



動で仲間と共に流した汗、文化祭や体育会での熱い瞬間、時には意見がぶつかり合いながらも、互いに認め合い成長してきた日々。そうした経験こそが、これらの人生を支える大切な財産となります。

これから、みなさんはそれぞれの道を歩んでいきます。希望に満ちあふれている人もいれば、不安を抱えている人もいるかもしれませんが。進学、まだ道を模索

している人、それぞれの選択があるでしょう。しかし、大切なのは「これまで学んできたことを忘れずに誠実に生きること」です。目の前の課題に真摯に向き合い、一歩ずつ進んでいけば、必ず道は開けます。

そして、どんな時でも「人に優しくあること」を忘れないでください。社会に出ると、楽しいことばかりではなく、時には厳しい現実と直面することもあります。うまくいかずに落ち込む日もあるでしょう。しかし、そんな時こそ、周囲の人に思いやりを持って接してみてください。優しくさは必ず誰かの心に届き、やがて自分に返ってきます。「誰かの力になりたい」と思う気持ちこそが、より良い未来を作る原動力になります。

また、みなさんにはそれぞれ夢や目標があると思います。すぐに叶うものもあれば、長い時間がかかるものもあるでしょう。思うようにいかず、挫折を経験することもあるかもしれません。しかし、夢を叶えるために一番大切なのは、「信じ続けること」と「努力し続けること」です。たとえ失敗しても、その経験は決して無駄にはなりません。むしろ、そこから学び、次への力に変えることができれば、

夢への道は確実に近づいていきます。挑戦を恐れず、一歩ずつ前へ進んでください。最後に、みなさんと過ごした日々を思い返すと、たくさんの思い出がよみがえります。授業での何気ない会話、行事での熱気、時には悩みを抱えながらも真剣に向き合っていた姿……。その一つひとつが、私にとっても大切な記憶です。これからも、みなさんの成長をずっと応援しています。いつでも母校に帰ってきてください。笑顔でみなさんに再会できる日を楽しみにしています。

改めて、ご卒業おめでとうございます。みなさんの未来が輝かしいものであることを、心から願っています。どんな時も「笑顔で忘れずに」。

自分の道を楽しんで

森下 美穂

高校時代の私は反抗期真っ只中で髪が腰まで長くスカートもそれ以上に長く、ベチャコンのかばんになんとか仕上げた宿題を入れて毎日眠い目を擦りながら自転車で行って通っていました。憧れて入った高校では先生達が偏差値＝自分達の価値のような見方をしているように感じて

「何のために勉強しなくてはいけないのか?」「早く自由になつてやりたいことだけに時間を使いたい」といったことばかり考えて過ごしました。そんな私の好きな教科は生物と世界史。しかし、世界史の時間には図表ばかり眺めては、大学生になつてアルバイトをしたら絶対行くぞと決めた国や見たい史跡のリストアップばかりしていました。

親元を離れて大学生になった私は生物の勉強とバスケットボール、そして様々なアルバイトに励みました。アルバイトでは世の中にはいろいろな仕事があることを知り、自分の仕事に誇りを持ち取りくんでいるカッコいい大人にたくさん出会いました。貯めたお金で行きたかった国にも行きました。中国の万里の長城でスリに追いかけられるなど数々のトラブルにも見舞われましたが、今まで見たことのない美しい景色に感動し、自分が住んできた世界がいかに狭い世界であったかを実感しました。また、フィリピンで子供たちが毎日ゴミをあさって生活している様子を目の当たりにして、貧困や紛争で苦しんでいる人が世界には数多くいる中で「人が安心して暮らせる社会と

は?」「人の幸せとは何か?」という問いを持ち、深く考える契機になりました。さらに、重度障がい者でも参加できるように考案された車椅子ツインバスケットボールチームに所属して共に過ごした日々の中で、「障がい者と健常者は本当に違うのか?」「必要な支援の在り方とは?」ということについて考え、自分に出来ることを模索しました。このような経験は、自分の人生を作る上で、決定的な学びの場になりました。そして、高校時代のさまざまな教科の勉強は、世の中のことを理解したり解決の糸口を辿るにはまだまだ基礎的なものだったと感じられるようになり、自分自身の無知に気づかされました。

人の一生は、長き道を歩む旅のようなものだと思います。まっすぐ歩くことも大切ですが、寄り道も回り道も必要です。自分の目で見て自分と異なる意見や見方を知ること、自分が正しいと思っていた答えや常識も実は間違っていたのではないかと立ち止まって考えることが出来ます。常識に縛られず、前例にとらわれず、変えなくてはならないことは変えていくべきなのではないかと思えます。今

後の若い人の発想力こそ、社会を変える力となります。ぜひさまざまなことに挑戦し、自分にしか見えない景色を見ながら、時には困っている誰かの助けとなり、自分自身の人生の道中を楽しみながら歩んで行ってほしいと思います。卒業おめでとう。皆さんのさらなる飛躍を心から願っています。

自ら考えて行動を!

成田 知弘



卒業おめでとうございます。皆さんと出会ってもう3年、たくましく成長した姿を見て、本当に嬉しく思います。

四月からそれぞれの道に進み、将来の

進路を選択していくことになります。皆さんに身につけてほしいのは、自分で決めていく力です。苦手な人は次のことから始めてみてください。

些細なことから積極的に決める 意識しないことでも積極的に決める。例えば、今日は昼食に〇〇を食べようと意識的に決めるなど、小さなことから始めてみましょう。

人に相談してみる 決断するための恐怖心を克服するには、一人で考えるより、他人の意見を聞いて客観的に判断してするのがおすすめです。

人生の中

でこれを選べばよいという「正解」はありません。だからこそ自分で作り上げていく「楽しさ」と「怖さ」があります。皆さんもこれからの人生を「自分」で決断し、後悔のないように進んでください。本当にありがとうございます。

強くしなやかに

土谷 香奈子

卒業おめでとう。みんなと出会ってもう3年が経ちました。たくさん厳しいことも言いましたが、みんな必死に食らい

ついてきてくれました。本当にありがとうございます。私は授業に行くのも楽しかったけれど、休憩時間や放課後のちょっとしたみんなとの会話がすごく好きでした。行事に真剣に取り組み姿、友達を気に掛ける姿、将来のことで悩む姿。今を懸命に生きるみんなのそばで過ごせた日々は私にとって忘れられない、かけがえのない時間です。

この3年間、みんなは様々なことに悩みながらも確実にたくましく成長したと思います。たくましさというと何だか強くて頑丈なイメージがあるかもしれませんが、私は真のたくましさとは、自分の弱点と向き合い、広い視野を持って柔軟に物事に対応できることだと思っています。最初から何でも完璧に出来る人なんてそうそういません。うまく行かない時、現状をただただ嘆くのではなく、しっかりと受け止めようすれば現状を打破できるか考えて諦めずに進んでいける人。何度失敗しても自分を信じてまた前を向ける人。そんなしなやかさを備えた真にたくましい人になってくれることを願っています。

今を大切に

Hiddenori Ishii

〜夢 With You〜

たった一度の自分の人生 自分で切り開け 好きに活きる

卒業おめでとう

貴方の大切な人生の一瞬 共に過ごせた事を嬉しく思います

全ての事に感謝 共に お互いの夢に向かって前進しましょう

前進して 疲れたり 躓いたりしても大丈夫

熱い一瞬を共に過ごした仲間や我々がいるじゃない

いつでも頼って いつでも甘えて いつでも支え合いましょ

そんな「学園魂」を大切に 今を大切に生きてください

いつまでも 本当にありがとう

The Present

佐藤 徑

Presentという単語は、もちろん、「贈り物」という意味で使われることもあれば、「現在」という意味で使われること



なりたい自分へ

小松原 悠希

ご卒業おめでとうございます。晴れやかな門出にどんな言葉を贈ろうかと考えながら、今日までの3年間を思い返しました。笑ったり泣いたり、人との折り合いのつけ方や自分との向き合い方に悩みながらも前に進んできましたね。そうした毎日にかかわらせていただける教員という仕事は、やはり役得です。みなさん

はこれから先も、さらに多くの経験をして今よりもっと大きく成長していくのでしょ。

「失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければそれは成功になる」パナソニックの創業者で、「経営の神様」と呼ばれる松下幸之助さんの言葉です。継続することの大切さを説いた言葉ととらえることもできるのですが、私は「成功するまで」という部分こそ、この言葉の良さが詰まっていると思うのです。ただ何となく繰り返すのではなく、経験から何を得てどう行動するか。向上心を持つこと。どんな自分でありたいか、自問を繰り返し先に成功が待っているはずですよ。

新しい世界へ踏み出すみなさんが、これから先、何かに悩んだ時にはぜひ自分たずねてみてください。「なりたい自分になるために今何が必要か」と。納得するまで何度も自分や周り向き合ってきたあなたです。どうせやるなら妥協せず！

みなさんが思い描いて進む未来が素敵な日々であることを願っています。



入れたプレゼントがたくさんあったのではないだろうか。いつまでも大切にしてください。卒業後の活躍も期待しています。ご卒業おめでとうございます。

卒業式を迎えるみなさんへ

内村 政司
皆さんご卒業おめでとうございます。

2年間ではありましたが、私にとっては思い出深い学年でありました。皆さんにとってはどうだったのか気になるところではありますが、意義ある学園生活であったとすれば幸いです。

何度目かの高校2年生を担当することとなりましたが、中学生の頃は、コロナウィルス感染症の影響で行事等は制約を受け、今年は猛暑の影響で体育会は午前中で終了となる等、皆さんが高校生活を十分に楽しめたのかは気にかかることではあります。振り返ると、友人が困っているとき進んで手を差し伸べようとする皆さんの姿等、正直言葉使いや行動に幼さは感じるものの皆の手柄や成長を感じる機会も多くあり、共に過ごせたことを喜ばしく思っています。あえて注文を付けるとすれば、もう少し素直に好意を示した方がいいと思います。照れて素直になれず誤解を受けてしまうことも多かったように感じられましたので、これからは、照れずにそして素直に行動に移してほしいと思います。

また、例年通り他学年の授業もなく、総進文Ⅱの人たちとはたまの朝礼・終礼以外では、ほぼ関りがありませんでした。

受験本番では面接練習や小論文指導などで意外なほど関わることもあり、少し驚きました。どの程度皆さんの進路の実現に貢献できたか定かではありませんが、できる限りの力は尽くしたつもりです。

ただ、自覚はないこともないのですが、話が長いので、とりとめのない話をして皆に迷惑をかけたのではないかと、気を使わせたのではないかと、今になって思います。この場を借りてお詫びします。

自分でも何を書いているのかよく分からなくなってしまうので、そろそろ終わりにしようと思いますが、最後に一つだけ言わせてもらいたいです。人生で無駄になることは何一つありません。いい加減な気持ちで臨めば、何も得るものがなく、真剣に取り組めばどんな小さなことでも必ず得るものがあります。今はまだわからないと思います。半信半疑でも構いません。心に留めておいてください。最後にもう一度ご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が実り多いものになることを心より願っています。

皆さんのこれからの人生がさらに充実したものになりますように

藤原 俊浩

「ご卒業おめでとうございます。この3年間、学習・行事・部活動・課外活動など、いろいろなことに挑戦し、大きく成長してきましたね。新たなステージでも、今まで取り組んできたことを活かしながら、活躍してください。困難なことがあっても、その都度考えて、進んでみましょう。後で、振り返ったときに、「そんなこともあったなあ」と懐かしく感じる日もあるかもしれません。皆さんの未来が輝かしいものになりますよう祈っています。

自分を信じる力

中島 覚

卒業おめでとうございます。皆さんの人生の中で高校生活という貴重な時間を一緒に過ごすことができて、私にとってもかけがえのない経験となりました。本当にありがとうございます。

さて、皆さんは自分に「自信」がありますか。「自信」とは、「自分を信じる力」と言われます。これから皆さんは社会に出て、いろいろなことにチャレンジして

いくチャンスを得ることでしょうし、逆に多くの乗り越えるべき困難なことにも出会うでしょう。

私は子供のころからラグビーが大好きでした。その当時よく耳にしたのが、明治大学ラグビー部の礎を築いた北島監督の言葉「前へ」です。北島先生は、「長い人生だから数多くの障害物にぶつかるだろう。かわすことで乗り越えられる障害物ならばいい。しかし、大きな困難にぶつかったときは、体当たりで乗り越えていくしかない。いつものクセでかわそうとしたら、きつと痛い目に合うだろう。とにかく「前へ」。ためらわずに「前へ。」と言われていて、常に「前へ」進むことが重要と言われていました。年を重ねるとともに、北島先生の言葉が人生にとってとても大切な言葉だと実感するようになりました。

皆さんはこれから、個々の目標に向かって一歩一歩進んでいくことでしょう。大きな困難に出会うかもしれません。その時は逃げることなく正面からぶつかり、一歩でも「前へ」進むことを心掛けてください。その際支えになるのは、「自分を信じる力」となるでしょう。自分を信



じて、これからの人生を大いに楽しんでください。

卒業短歌

■ 1組 ■

夏の空手に汗握る大舞台
記憶に残った青春の跡
高橋 秀太

ネット越え交わした視線今もなお
支え合う意味心に響く
守屋 亮汰

早朝に母のおにぎりで力湧く
汽車に揺られて金光へ行く
岸本奈那美

日が昇り止まった横顔照らされて
白い息吐き踏み出す一歩
中川 舞子

■ 2組 ■

さみどりの抹茶を飲めば思い出す
碧水庵に集いし笑顔
古城 静流

晴舞台コートに響く足音に
込めた覚悟と繋いだ絆
高橋里桜奈

応援を届けてくれる人たちに
見せたものは勝利の恩返し
内田 海基

なにげない会話はずんだ通学路
もうそこにはない声と足跡
古江 美樹

■ 3組 ■

復帰の日仲間の声が背中押し
靱帯のキズも希望にかわる
貝原 一太

最後の夏仲間と向かう会場に
高まる期待晴れわたる空
齋藤 一貴

卒業の期待と感謝を胸に抱き
努力を重ね今日も前進
平井 幸

友達と満開に咲いた桜見て
始まる一年期待を抱く
伊藤 璃虹

■ 4組 ■

先見えぬ真つ暗闇に抱く不安
未来描き殴る蛍光ペン
戸谷 祐夢

新しい世界へ歩む春の風
友との日々は心に刻み
恵谷 青空

春一番あたたかな風に飛び乗って
翔けてゆきます明日へと
高旗 珂名

夕暮れに友と歩いた通学路
幸せな日々忘れたくない
原田椰々子

■ 5組 ■

ありがとう共に過ごした六年は
まだ見ぬ未来の乗車券
栗元 涼

前見えぬ辛さとともに勉学し
励んだ努力は明日をつくる
中西 健

今はただ記憶を乗せた花びらと
君の笑顔に思いめぐらす
丸本 芽生

あふれ出す涙こらえて今歌おう
君と重なる最後の数秒
南 陽菜乃

■ 6組 ■

朝寒に全てを忘れ淡々と
一人で走るあの時が幸
高木 洸士

朝練後いつもギリギリチャイム席
教室目指し走る青春
山口 諒成

玄関でいつてらっしゃい母の声
この一言でやる気全開
岡邊みのり

三連休嬉しい気持ち溢れるが
最終日にはみんなに会いたい
藤井 梨緒

卒業を前に思うこと

生徒

金光学園に入学して

1組 岸本 奈那美

私は小学生の頃から少林寺拳法を始め、高校進学の際に、岡山で強豪校である金光学園で少林寺拳法を続けたいと強く思いました。しかし、遠方で、通学に片道3時間かかることから親からは強く反対されましたが、私の強い思いで親を説得し、入学することができました。

金光学園の少林寺拳法部は高入生の私をととても明るく迎え入れてくれ、「これから一緒にがんばろう」と声をかけてくれました。しかし、高1の冬に体調を崩してしまい、学校に行けない日々が続きました。みんなは学校に行つて勉強をし、部活をしている中、何もできていない自分に対して「今までしてきたことが間違いかもしいれない」など自分を否定し、不安な思いでいっぱいになりました。そんな時でも先生や友達に私を気にかけて声

をかけてくれ、とても救われました。その後、徐々に学校に行くこともできるようになり、部活にも復帰することができました。

先生方、部活の仲間、そして両親のおかげで最後の大会までやりきることができました。また、今までで一番良い成績を残すことができました。そこで、「今までやってきたことは間違いではなかったんだな」と思うことができました。この3年間でたくさんの方に救われ、自分自身が人として成長することができたと思います。春から大学生になる私はこの金光学園で得た力を活かして、充実した大学生活を送りたいと思います。

最後に、この3年間、朝早く起きてお弁当を作つて、駅まで送迎をしてくれた両親、本当にありがとうございます。どんなときでも味方でいてくれて、心強かったです。これからの私も温かく見守ってください。



卒業生お礼の言葉

かけがえのない経験

2組 籠崎 なすな

高校卒業を迎えるにあたり、まずは支えてくださったすべての方々に心から感謝を申し上げます。6年間、先生方や家族、友人に支えられながら、充実した学園生活を送ることができました。

特に、少林寺拳法部での活動は、私にとってかけがえのない経験となりました。入部当初は思うように動けず、試合で悔しい思いをすることもありましたが、しかし、長年ベアを組んだ仲間と励まし合いながら技を磨き、最後の県大会では優勝という結果を残すことができたのは、私たちの努力だけでなく、指導してくださった先生方、支えてくれた仲間、そして応援してくれた家族のおかげです。この経

験を通じて、努力の大切さや周囲の支えのありがたさを強く感じました。

また、学園生活では多くの出会いと学びがありました。勉強や部活動はもちろんのこと、学校行事や日々の生活を通してさまざまな人と関わる中で、多くのことを吸収することができました。時には思い通りにいかず悩むこともありましたが、そのたびに友人や先生方が支えてくれました。自分一人ではできないことも、仲間と協力することで乗り越えられることを実感したのも、貴重な経験の一つです。

中でも、普段あまり関わることのなかった人たちと話す機会が増え、新しい価値観や考え方に触れられたことは、大きな財産となりました。多様な考えを持つ人々と接することで、自分の視野が広がり、これまで知らなかった世界を知ることができました。

6年間という限られた時間の中で、楽しいことも辛いことも経験し、それらすべてが自分を成長させてくれたと感じています。これからは大学に進学し、新たな環境で学ぶことになります。これまでの経験を糧に、挑戦し続け、さまざまなことを吸収していきたいです。そして、

支えてくれる人々への感謝の気持ちを忘れず、成長し続けられるよう努力を重ねていこうと思います。学園生活に彩りを与えてくれた友達、大切に育ててくれた両親、親身に寄り添ってくださった先生方、本当にありがとうございます。

挑戦と成長

3組 今城 麻佑

私が過ごした金光学園での6年間はとても充実したものでした。このような学園生活を送れたのは、家族、先生方、そして友人たちのおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

特に高校の3年間は様々なことに挑戦し、多くのものを身につけることができました。

私は吹奏楽部に所属しており、高校2年生の時には部員を引っ張る立場として同期と話し合いながら、多くのことを実践しました。失敗することもありましたが、顧問の先生方やしっかりした後輩たち、頼れる仲間を支えられ、その失敗も貴重な経験に変えることができました。最後の定期演奏会では、全員で最高のステージを作り上げることができ、とても

感動しました。

高校2年生の冬には、日本ベトナムティーンエイジ・アンバサダーに参加し、同年代のベトナム人学生と交流する機会がありました。皆明るくフレンドリーで、すぐに仲良くなることができました。ベトナム訪問時には、現地の歴史や文化、そしてその地でしか味わえない雰囲気を感じ、自分の考え方や価値観が大きく変わりました。

普段の学園生活では、友人たちと切磋琢磨しながら楽しく過ごすことができました。テスト期間中に放課後一緒に残つて勉強したこと、休みの日に遊びに行ったこと、小テストで対決したこと、思い返すと笑ってしまうようなささいなこと、私にとっては大切な思い出であり、一生忘れないと思います。

これから大学生として新たな生活を始めることに、少し不安もあります。しかし、金光学園で得た挑戦する勇氣と楽しさを胸に、積極的に行動し、成長していきたいと考えています。これからも感謝の気持ちを忘れず、自分の可能性を広げ、周りの人々に恩返しができるような人間になりたいと思います。

最高のfamily

4組 上原 亨太

私は金光学園に入学し、たくさんの方の最高の家族(family)に出会うことができました。最高のfamilyが誕生するまでには様々な過程がありました。1年生の頃の最初の入学式、勇気を振り絞って声をかけたこと。1年生の頃、雨の中楽しんで一日旅行、2年生の時よりみんなと仲が深まった修学旅行、一人一人の全力を出し切った体育会などさまざまな過程によって最高のfamilyが誕生しました。みんなと家族になれたのはこのような場面でした。たくさんの方の「ありがとう」が含まれていたからだと思います。悩みを抱えている時、苦しい時、嬉しい時、感激している時、怒っている時、一人一人の支えによる「ありがとう」でfamilyとしての絆が深まったと思います。

特に「ありがとう」が突出して現れた場面は高校野球、最後の夏の大会です。野球部でも「ありがとうベースボール」を掲げてこの大会に臨んでいました。この大会期間は応援してくれる皆さんにありがとう、指導者の皆さんにありがとう、いつも学校で指導してくださる先生方の

支えにありがとう、日頃からつらいこと嬉しいことを分かち合ってきたチームメイトにありがとう、いつも美味しいご飯や家事、送迎などをしてくださる保護者の皆様にありがとうと一日一日ありがとうを絶やしませんでした。

私自身の話になるのですが、マクドナルドもない県北の地から金光学園の一員として入学すること、生活することにとっても不安を抱いていました。口にはしていませんでしたが、自分は本当に人見知りで周りに馴染んでいくのがあまり得意ではありません。その中でも優しく迎えてくれて、自分を金光学園のfamilyとして認めてくれたみんなに言いたいです。本当にありがとう！ 私にたくさんの方の「ありがとう」をくれてありがとう！

また、苦しい場面私たちにたくさんの方の「ありがとう」を与えてくださった生徒、先生方、保護者の皆様本当にありがとうございました。本当に私たちは最高のfamilyです。これからも私たちに様々な壁が立ちますが頑張っていきます。その苦しい中でもみんなを支え合ってください。皆さんの「ありがとう」を生み出していきたいでしょう。そして最後まで最高のfamily

としてありがとうを言い合いたいです！

ありがとう！

卒業にあたっての懐古

5組 竹内 煌瑛

同じ小学校からの同級生がおらず、不安で押しつぶされそうだった中学校の入学式から6年が経ち、私は金光学園を卒業します。卒業にあたって、私の学園生活の中で印象深かった出来事を振り返ってみたいと思います。

2019年12月初旬、コロナウィルスが流行し始め、金光学園も大きな影響を受けました。対面の授業からリモートへと変わったり、楽しみにしていた行事も中止や変更を余儀なくされたりと例年とは違う中学校生活を過ごしました。友人や先生と対面で会うことができなかったことが一番悲しかったです。しかし、制限がある中でも楽しさを見出そうとする同級生たちやなんとかして行事を行おうと奔走してくださった先生方の協力があり、充実した中学生生活を送ることができたと思っています。

高校生活では自分の好きなことができた

たという思い出が沢山あります。特にソフトテニス部の友人と一緒に将棋の大会である「良寛杯」にボランティアで参加したことで、多くのビブリオバトルの大会に参加したことが私にとって印象深いです。もともと将棋は当時読んでいた本で興味をもっていたのですが、実際に生で将棋の対局を観戦すると一手一手にかける時間や人によって違う戦い方をしていくことを知ることができました。ビブリオバトルの大会では2年連続全国ビブリオバトル岡山県予選で準優勝することができました。ビブリオバトルとは自分が読んでほしい本を5分のスピーチと2、3分の質疑応答によって紹介し、一番読みたいと思った本を決めるというコミュニケーションシミュレーションゲームです。私は中学生から本を読み始め、自分が読んだ本の世界を誰かに共有したいと思っていました。担任の先生もオンラインで開催されたビブリオバトルの大会で同席してくださり、多くの人から応援を受けたことがとても嬉しかったです。

私にとって金光学園での学校生活は「誰かに支えられていること」を実感するよ

うな6年間だったと思います。私一人では成し遂げることができなかったことも友人や先生方、そして家族と一緒に乗り越えることができました。大学生、社会人になっても「誰かに支えられている」ということ、そして自分も「誰かを支えている」ということを忘れずに自分の夢や目標に向かって進んでいきたいと思っています。

モラトリアムの総決算

6組 山内 和人

金光学園での6年間という期間は濃密な時間でしたが、実際に振り返ってみると過ぎ去った時間は短く感じてしまいます。部活動、勉強、仲間、学校行事などなど、緻密に思い返せば、そのどれもが今の私を形作っているのだとしみじみと感じます。

それらの中でも、特に私の核を構成しているのは、部活動でした。少林寺拳法部では無数のことを学びました。日々先輩や後輩とともに切磋琢磨し、なにか一つ自分の好きなことに打ち込む、ということは、私にとっても良い経験になりました。特に私の中では、後輩の存在が大きかったです。後輩に何かを教える

こともありますが、私の場合は後輩に様々なことを教えてもらってばかりでした。また、誰かに教えたり、誰かを導いたりすることも、私のリーダーシップまたは社会性を育むのにとっても良い経験になりました。

少林寺拳法部では定期的に昇級や大会があり、毎回そのような目標があるので私はそれらの目標に向かって全力で取り組むことができました。そして、私が最後に選手として参加した県大会では、全国大会に行けるような成績は出せずに終わってしまいましたが、まだ自分は伸びしろがあるという次への希望を持ちつつ一時的に少林寺拳法から身を引いたので、個人的には良い意味で自分らしい終わり方だなと納得しました。なにより、その時の自分は全力で事を成し遂げたという自負もあります。また、受験が終わった今では少林寺拳法部での部活動に参加していますし、やはり少林寺拳法は自分の人生の根幹だなと、最近になって再認識しました。

兎にも角にも、部活動は、私を人として成長させてくれました。春から大学生になる私は、今は新しい環境への期待

で胸を膨らませています。今までの学生生活で学んだ多くのことをこれからの人生にも存分に活かして、悔いのない人生を歩んでいきたいと考えています。最後になりましたが、今まで私を育ててくれた家族、私とともに切磋琢磨してくれた友人や先輩そして後輩、私を常に支えてくださった先生方、今まで本当にありがとうございました。

保護者

たくさんのお会いに感謝

1組保護者 坂東 令子

金光学園にお世話になって早いもので6年が過ぎようとしています。

西日本豪雨で被災し、急遽進学を決めたため、親子ともに不安の中の学園生活のスタートになりました。また、中学1年生の3学期からは、新型コロナウイルスに振り回され、いろいろな行事が変更や中止になって悲しい思いもしました。コロナ禍を経て、やっと日常が戻って来たときに卒業するのは少し残念ですが、この6年間の学園生活では、たくさんのお会いをいただきました。そこには、先生方の

多大なご理解、そして応援があったからだと感謝しております。

コロナ禍で、思うような活動ができなくて何事にもやる気がなくなっていた中学2年生。突然「やっぱり野球がやりたい!!」と言って野球部に入部しました。それまでは、体を動かすよりも読書の方が好きだったので、まさか運動部、しかも野球部に入るなんて!!本当に驚きました。

入部してからは、練習試合や大会でいろいろなところに行かせていただきました。親の私たちも初めてのことがたくさんありましたが、野球部の保護者の方から教えていただきながら一緒に活動させていただきました。

ただ、高校でも野球部に入るのかと思っていたところ、「野球はやるよりも見る方が好きだと気づいた」ということで、高校からは応援に回りました。同級生の活躍、そして甲子園出場を応援するため試合の度に会場に足を運び、スタンドから声援を送っていました。

高校1年生からは倉敷美観地区にある井上家住宅で、ボランティアとして来館者への案内や掃除に取り組みました。そ



卒業生保護者記念品目録贈呈

また、高校では、生徒会長もさせていただきました。本人から立候補したこと、聞かされたときには「何て無謀なことを...」と驚きを隠せませんでした。しかし、そんな積極性が出てきたことが嬉しかったことも事実です。

とにかく、高校3年間は、コロナ禍でできなかったことを取り戻すかのように、いろいろなことにチャレンジし続けていました。親の目から見ても毎日がとても楽しそうで、「私もこんな高校生活をも一度やりたいな」と思うほどでした。

多感な時代を金光学園で過ごす中で、やりたいことを見つけ、その実現に向けて努力する息子を温かく見守ってくださった先生方に改めて感謝しております。ありがとうございました。

学び舎に感謝を込めて

2組保護者 恒本 靖

娘が金光学園中学に入学してからの6年間を振り返ると、たくさんの思い出が浮かびます。その中でも、娘が入部した少林寺拳法部の試合を初めて観戦した瞬間は、私にとって忘れられない思い出です。娘の初めての試合は、私はただの親と



卒業生保護者代表お礼の言葉

して娘の頑張りを見守るつもりで会場に足を運びました。しかし、試合開始直後、今までの娘から聞いたことのないような力強い気合の声を耳にした瞬間、私は驚きと共に胸がいっぱいになりました。その声は、普段の生活では決して聞くことのない、全身全霊を込めたような声で、ただの気合ではなく、これまでの努力と葛藤、そして自分自身と向き合ってきた証だったのだと思います。親として、そんな姿を目の当たりにできたことは、何物にも代えがたい感動の瞬間でした。

また、6年間の少林寺拳法部での部活動を通じて、肉体的にも精神的にも成長できたと思います。未経験からの挑戦で、最初は基礎の動きも覚えることができず、苦しんでいた時期もありました。それで

の中では、外国の方に案内をすることもありました。「そんな英語で大丈夫なの?」とハラハラしながら見ていましたが、度胸だけはしっかりついていました。活動中いろいろな方とお話をさせていただく中で、将来進むべき方向性も見えてきたようです。そこでの経験やいただいたアドバイスは、きっとこれからの人生でも役に立つくれることと思っています。在学中には、国内の研修だけではなく、オーストラリア、カンザス・シティ(アメリカ)、ベトナム、ニュー・ヨークにも行かせていただきました。そこでも、多くの方との出会いを得たり、新たな目標を見つけたりと一回りも二回りも成長した姿を見せてくれました。

も、仲間や顧問の先生方の支えを受けながら、一步一步前に進み、高校に入ってから、インターハイにも出場することが出来ました。その結果を得たことは、娘にとっても私たち家族にとっても、かけがえのない経験となりました。

学校生活においては、コロナ禍と相まって、実際のコミュニケーションよりも、SNSでの繋がりが一気に普及し始めた時期ではありましたが、いつも元気に楽しそうに登校しておりました。ただ、今振り返ってみると、ときには、友人関係やSNSに関する悩みも少なからずあったのではないかと思います。

特にSNSは、情報が瞬時に広まるという、ツールとしては計り知れない可能性がありますが、時には誤解や不安を招く原因にもなります。ただ、そのような時期においても娘を支えてくれたのは、部活の仲間や親友との強い絆であったと思います。このような特殊な時期を過ごした学校生活ですが、絆を支えるに困難な時期でも前向きに進むことができ、少しずつSNSの扱い方を学び、より良い人間関係を築く術を身につけていったのだと感じております。

最後になりますが、このような経験が出来た金光学園という学び舎は、学問だけでなく、人生において大切なことを教えてくれる場であり、我が子にとってもかけがえのない時間を与えて頂きました。改めて、このような環境を提供してくださった、諸先生方をはじめ、職員のみなさまへ深く感謝申し上げます。

金光学園での経験や思い出を糧に、これからの人生、自信を持って歩んでいく娘を、応援し続けたいと思います。お世話になった皆さま、本当にありがとうございます。

明るい未来に向かって金光旋風

3組保護者 難波 智章

先生方、高校3年間、子供たちへ指導いただき、ありがとうございました。所属した野球部では、監督、コーチ、そしてマネージャーの方には大変お世話になりました。皆様には、心より感謝申し上げます。

思い返せば、進学を考える中で、野球も続けたい思いもあり、学校選びも熟考していた中から、金光学園を選びました。体験練習に参加させていただいた際、

時間を上手く使って練習されており、監督、コーチ、選手間で会話している雰囲気がとても良い印象を受けました。この環境で、中学時代に繋がった仲間とまた一緒に野球ができる事。そして、同じ進学を志す仲間と過ごせる学校であると考え、入学を決めました。

文武両道の生活が始まるも、やはり野球の比重が大きくなり、勉強の時間を作れず、模索する日もありました。

野球にいたっては、遠征や強豪校との練習試合といった貴重な経験を積ませていただく一方で、不慮の事故による戦線離脱、体重が増えず、思うような結果を出せず、焦り、心が折れそうな時もありました。

それでも、諦めず、もがき苦しみ、懸命に練習した結果、ベンチメンバーの一員として、3年生最後の夏を駆け抜けることができました。

猛暑の中、吹奏楽部による演奏とダンス部の息のあった応援、また球場と学園から贈っていただいた声援は、選手に勇氣と勢いを与えてくれました。スタンドとベンチの心を一つに繋いでくれた応援には感謝の限りです。

選手、保護者、そして学園全体が熱く、夢中になった夏は、子ども達にとって、一生の宝物になるでしょう。それは、我々、保護者の心にも刻まれた思い出となりました。

卒業される皆さんは、この先、様々な苦難や壁にぶつかることがあると思いますが、この夏のことを思い出し、諦めずに乗り越えて行つて欲しいです。そして、活躍して金光旋風を巻き起こしてくれることを期待しています。

卒業を前に……

4組保護者 恵谷 理枝

「青空も大陸が行った学校に行きたい」今から思えばこの一言が全ての始まりでした。

当時小学3年生だった娘の決意を聞いて、兄の時とはまた違った不安感・焦燥感に苛まれながらも、親としてできる限りのことはしてやりたい！と走り抜けてきた金光学園への想いが今まさにゴールを迎えようとしています。持ち前の要領の悪さを愛嬌だけで渡ってきた娘が、自分の行きたい学校を自分で決め、そのために通いたい塾も自分で決

め、苦手な勉強を必死でしている姿をずっとそばで見っていたので、合格通知が来た時には本当に嬉しくてありとあらゆる方向に感謝し倒しました。

そして、その感謝の思いだけで役員を引き受けてしまい、私のような人間が務まるのかも未だ謎で答えを出せぬまま卒業を迎えようとしています。しかし、役員になってから改めてすごく感じさせられるのが、先生方のもとても強みな生徒達への愛（笑）。どうしたらこの子たちが輝けるか、楽しませてやれるのか、喜ばせてやれるのか、正しい大人へと導いてやれるのか。そして、どうしたらこの子たちがこんなにも輝いている、楽しんでいる、喜んでいる、成長している、という事をみんなに分かってもらえるのか、といったも考えておられるのが手に取るように分かりました。先生方との何気ない会話の中でも、彼らへの愛が溢れて止まらない様子がとても身に染みて、もう卒業して何年にもなる兄の事も氣遣つてくれ、兄弟揃って金光学園に通わせていただく事が出来ていつも感謝の思いでいっぱいです。

思い起こせば、息子が金光学園に通つ

ていた時にも6年間毎日楽しい日々を送っていました。数多くの友人と出会い、その出会いに親も便乗して、私にも多くのママ友ができて、そしてとても楽しい先生たちとのやりとり。当時4歳だった娘が、毎日楽しそうに過ごしている兄を何年も見てきたのだから、「私も通いたい」と思うのは全く当たり前の事です。

夢と希望に満ち溢れて入学式を迎え、新しい友人もたくさんできて、楽しい事が待っている!! と思った矢先に新型コロナウイルスの波が来ました。行事どころか、登校すらできず授業は自室でこもってPCに向かう日々。日本全国が不安でいっぱいの中、県内でもいち早くオンライン授業を取り入れてくださり、こんな時だからこそ生徒たちと繋がって向き合いたいと思ってくれた先生方には本当に頭が下がりました。そしてコロナ禍でも、本当に少しずつ元の学園生活に戻っていき、色々な行事も楽しむことができて、たくさんさんの思い出を胸に親子揃って巣立とうとしています。

新しい道へ進んでも、たまに顔を見せに行けばこの学園の先生方はきつとみんな笑顔で迎えてくれる。ずっと恩師でい

てくれるという疑いのような信頼と安心感をひしひしと感じながら、最後の大会イベントである受験戦争を乗り切つて欲しいと願っています。先生方、本当にありがとうございます。そして、これからよろしく願います。

出合いに感謝 成長させて頂いた6年間

5組保護者 山本 史子

娘の学園生活は、多くの出合いに恵まれた6年間でした。

中学入学時知り合いもほとんどおらず不安を感じていましたが、入学前のスクリンクで友達ができたと迎えの車に乗り込んできた娘の笑顔は今でも記憶に残っています。それから6年間、多くの友達と楽しい学校生活を送ることができました。特に高校2、3年生のクラスは高2からの持ち上がりで、仲が良くお互いに向上しあえるクラスです。クラスメイトのこんなところがすごい、尊敬できると教えてくれ、毎日のように学校での出来事を話してくれました。微笑ましいエピソードを聞いていると、学校生活が楽しそうで親としても安心できました。

学園の友達とは、一生付き合っていける友達だと娘はよく言っています。そのように思える友達に巡り会えたのはとても素敵なことだと思います。

多くのことに積極的に取り組んできた娘ですが学園だからこそできた経験は様々あります。

中学から入ったダンス部では学外でのイベントにも多数出演させて頂きました。特に高1の玉島ハーバーダンスで優勝したのは思い出に残っています。また、高2からの野球応援は親子共々楽しんで参加させて頂きました。高3の夏大会では同級生の応援ということで力が入るのも楽しかったのですが、準決勝まで勝ち進んだ学園の強さ。5回も応援できて幸せだったと娘は言っていましたし、暑い夏と一緒に経験させて頂いたことはかけがえない思い出となりました。

高2の秋には日本、ベトナムの高校生100人と交流したイオンワンパーセントクラブ「日本・ベトナムティーンエイジアンバサダー」に参加させて頂きました。日本、ベトナムの両国の大使館や政府機関に表敬訪問したことはなかなかできないことですし、同年代の多くの学生と交

流できたことで娘も成長できたと思っています。この経験を通して友人も増え、いろいろな考えができるようになったようです。私自身もベトナムの学生を家に受け入れ、久しぶりに英語で会話できたのは楽しかったです。

探究活動では、桃を生産している祖母のところで廃棄される桃をどうにかしたいとメンバー3人でロス桃ジェラートを開発しました。新聞やテレビでも取り上げて頂き、授業だけでなく課外への活動にも繋がりました。特に山陽新聞社の食品ロスへのシンポジウムに参加し、堂々と発表したことは我が娘ながら素晴らしいと感じました。この活動を通してお世話になった方々からは本当に良い影響を受けたと思っています。

高3最後にフィルムプロジェクトのリーダーとして立候補したのも思い出に残っています。受験を夏に控えて心配していましたが、CM撮影にラジオ出演、どれも意欲的に取り組んでいました。CMを作る過程で学園の歴史を改めて学んだり、他学年の生徒と交流したりと学園生活最後の良き経験となりました。

校長先生をはじめ諸先生方には大変お

世話になりました。本当に学園でよかった」は娘がよく言う言葉

ですが、学園だからこそ成長させて頂いたと思っと思っています。挑戦を支え、いろいろなことに取り組む機会を与えて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。金光学園の今後益々のご発展をお祈り致します。6年間ありがとうございました。



ありがとうが詰まった6年間

6組保護者 板崎 こずえ
娘を金光学園に通わせたい。そう考え

ていたのは私でした。理由としては、まず自転車で20分程度の距離という通いやすさ。このことにとても縁を感じていました。そして何より理由として大きいのが、私の周りの金光学園卒業生の友達、知り合いが「金光学園に通えて良かった、楽しくて手厚い学校だよ」と教えてくれ、皆素敵な人ばかりだったことです。ですが小学生の娘は友達の多い地元中学を希望していたので、「明日で願書締め切りだけど受験しないよね？」の私の問いに、

「してみようかな」と

答えたことに驚き慌てて車の中で証明写真を貼りながら受付ギリギリに願書を提出したのを今でもよく覚えています。それから本当に



あつという間に6年間で過ぎようとしています。中高の6年はとても早いと聞いてはいましたが痛感しています。とても嬉しくてそしてとても寂しいです。金光学園に入學出来てからの6年間、まず娘にはたくさん友達が出来ました。楽しいことは全力で楽しみ、辛い時は共感して励ましてくれる、笑顔が素敵な子ばかりで私自身が何度娘の友人に癒され、元気をもらったかわかりません。もともととても消極的で前に出ることが苦手な娘もお友達のおかげで自信がつき、積極的な行動をとれるようになりました。そしてたくさん先生に支えていただきました。娘の口から大好きな先生達の話が出るのがとても嬉しかったです。ダンス部では顧問の先生のおかげでほぼ祭やイベント、野球部応援のチャーム経験させていただけました。手を焼かせたこともあったと聞いています。最後まで見守ってくださりありがとうございました。受験期においては最後の最後の最後まで聞いたことない先生方の名前をたくさん聞きました。アドバイスをもらい励ましてもらった。とても辛い受験期を最後までやり抜けたのは一緒に戦ってる仲間、

そして娘の受験が終わるのを待ってくれた友達、そして何より親身になって応援してくださる先生方の尽力のおかげです。特に2年担任してくださった小松原先生、ありがとうございました。コロナ禍で我慢を強いられる経験もたくさんしましたが、今振り返ればそれは先生方や友人と共に過ごして乗り越えたという貴重な経験となり、耐えた分楽しいことや嬉しいことのありがたさが感じられたように思います。イオンワンパーセントプログラムではベトナムとの短期交換留学という夢のような体験をさせていただいたり、韓国、ベトナムからのホームステイを引き受けてみたり、修学旅行にシンガポールに行ったり海外の文化にもたくさん触れることが出来ました。金光学園でなければ出来なかった経験、出会えなかった先生、友人は今後の娘の人生の大きな心の支えです。6年間私自身も本当に楽しかったです。今後金光学園の素晴らしさを今度は卒業生となる娘が伝えていくと思います。6年間娘と関わってくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。

道

(39)

金光 道晴

「感謝の心 お礼の心」

毎年1月は、金光教本部で信行期間として行われる早朝の教話を聞きに行かせて頂くのが、私の年中行事になっています。寒の期間の1/4～1/31まで毎朝5時15分から、色々な先生方が約30分間お話をされるのでありますが、もう30年以上前から、そのお話を聞くのを寒の期間の取り組みとして、少し早起きをして参加させて頂いています。したがって私にとっての1月は、良き話を聞かせて頂き心洗われ、すがすがしい気持ちで1日がスタートできる月になっているのであります。

今年は「お礼しか勝たん」世話になる全てに礼を言う心」というテーマで行われました。最初私はその意味を理解していませんでしたが「お礼しか勝たん」という言葉は、「お礼が一番である」「お礼に勝るものはない」「お礼が最も大切である」というような意味だそうで、若者言葉で「・・・しか勝たん」という言葉がよく使われるようであります。そこで、この度の「道」の題を「感謝 お礼 ありがとう」の心とさせて頂きました。先日そんなことを考えている時に、次のような言葉に出会いました。「愚痴や悪口を言うことのマイナス効果」と反対に「日々感謝の気持ちを持つことによるプラス効果」というものです。大人の世界では、よく同僚などと会食をして、お酒が入ると楽しく愉快に会話が弾むこともありますが、時には逆に会社や上

のネガティブな感情を軽減することはわかっています。

ケンタッキ―大学の研究によれば「感謝」の気持ちが強い人ほど否定的な言動に対してやり返すことがないということです。これは「感謝」が共感を高め、攻撃性を減らすからだと説明されています。愚痴や悪口を言いたくなった時には「感謝」の気持ちを表現してみるのもいいかもしれません。「○○さんはいつも私の意見を真剣に聞いてくれて感謝しています」といった具合です。きっと相手もこういった言葉を聞くことで、行動や考え方にプラスの変化が生まれてくるかもしれないというのであります。

話を元に戻します。この度の金光教の信行期間のテーマは「お礼しか勝たん」世話になる全てに礼をいう心」ということは申しましたが、1か月間、色々な方が、「感謝」や「お礼」の気持ちの大切さを話されました。全て私にとっては納得できるものばかりでした。

金光教の教祖様の御教えに「信心するものは 木の切り株に腰を下ろして休んでも、立つときには礼をいう心持ちになれよ」というのがあります。入学式の時に新入生にお渡しした日めくりにも示されている御教えです。また、金光学園のやつなみ保護者会で大切にしてきた「ちちはも子供とともに生まれたり育たねばならぬ子もちははも」という歌を詠まれた碧水の号で知られている4代の金光鑑太郎様は歌人で書家であられましたが、「世話になる全てに礼を言う心」で始まるお歌を沢山詠まれています。そのいくつか挙げてみますと

「世話になる全てに礼を言う心 平和生み出す心と言わん」

司の愚痴や悪口を言って、ストレスを発散したり、うつぶんを晴らしたりするような場になることも珍しくありません。もしかしたら、友人関係や家族関係についても、うまくいっていない時にはつい愚痴や悪口を言ってしまうようなこともあるのではないのでしょうか。ところが愚痴や悪口を言うことには意外にマイナス効果があることが分かっているということです。

スタンフォード大学の研究によると、30分以上愚痴を言い続けると脳に悪影響を及ぼし、海馬が縮小する可能性もあるそうです。海馬は記憶や学習に重要な役割を果たす脳の部位ですが、愚痴や悪口を長時間言い続けることは、認知機能にも悪影響を及ぼす可能性があると言われているのです。愚痴や悪口を言い続けることによって、うつぶんを晴らすとかストレスを発散するというのは錯覚に過ぎず、実際にはよりストレスをより溜めてしまう可能性があるということです。

アメリカのトラヴィス・ブラッドベリーという心理学者によると、愚痴や悪口を言うことでコルチゾールというストレスホルモンが分泌され、血液や血糖値が上昇するのだそうで、身体にも悪影響を及ぼすということです。では愚痴や悪口のマイナス効果を消すにはどうしたらいいのでしょうか。

カリフォルニア大学の研究では、日々「感謝」の気持ちを培うことでコルチゾールの分泌が大幅に低下したという結果が出ているということです。「感謝」の気持ちを持つことが、ストレス軽減には大変効果的であるとされていますが、「感謝」の気持ちを持つことには、他にも多くの利点があると言われています。例えば「感謝」は嫉妬や恨み、欲求不満から後悔まで、数多く

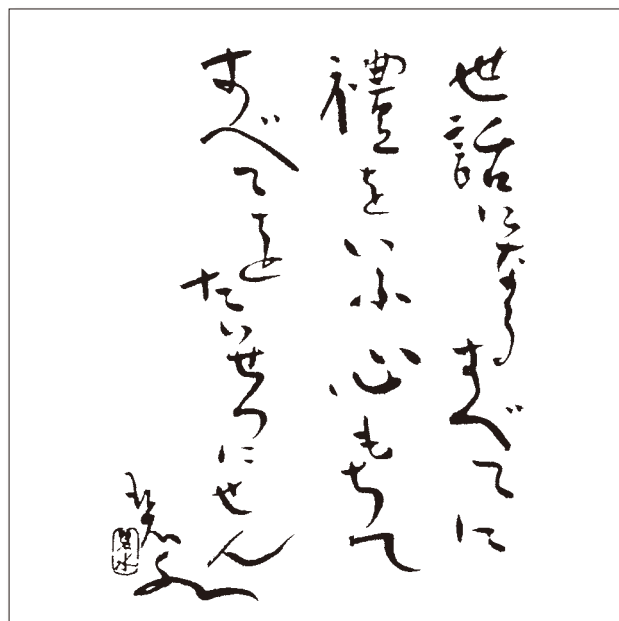
「世話になる全てに礼を言う心 そのまま神をおろがむ心」
「世話になる全てに礼を言う心 人が助かり立ち行く心」
「世話になる全てに礼を言う心 世に明るさをもたらす心」
「世話になる全てに礼を言う心 込めさせ給へわが生活に」
「世話になる全てに礼を言う心 願わせ給い教え給へり」
「世話になる全てに礼を言う心 今日もと願ひ祈る目覚めて」
「世話になる全てに礼を言う心 神にし向かう心なりけり」
「世話になる全てに礼を言う心 神を現し神になる心」
「世話になる全てに礼を言う心 込めさせ申さん お世話になります」

正に「お礼しか勝たん」と言われたように、「お礼」が最善である、「お礼」が第一である、「お礼」が最も大切である、「お礼」に勝るものはない、「お礼」を申しあげることの他は何物もないということなのであると思わせていただくのであります。そしてこの言葉は、昨年8月29日に仕えられた父上である金光教の前教主金光平輝様の本葬の時のご挨拶で現教主金光様が使われた言葉でもありますが、「・・・4代金光様が『お礼を土台に』とおっしゃられた意味が少しずつわかってきた気がするんですね。寂しいとか悲しいの前に、どう考えてもお礼が足らんと、お礼を申さずにはいられない、つまりこのお道は何よりもお礼しか勝たんのだと思わされています。・・・」というご挨拶でありました。

話は変わりますが、先日2月28日には高等学校の卒業式が挙行され、山本伊織さんが卒業生代表として答辞を読みましたが、それは彼女が一人だけで作ったのではなく、答辞起草委員会

という各クラスの代表委員で相談・検討しまとめたものであります。後から聞かせてもらったのですが、今回の答辞は「感謝」をテーマとして作成されたことでした。彼女は声を詰まらせながら、両親や先生や友人への「感謝」の気持ちを心に込めて伝えていましたが、大変素晴らしい答辞であったと思います。この「やつなみ」にも掲載されていますので改めて読んでいただきたいと思います。聞いている私も、何度も感極まって涙があふれてきましたが、私の周りに座っていた先生方も、また来賓の方々も同じだったそうです。

年が明けてのここまでの数か月、いろいろな話を聞かせて頂く中で、私自身に「感謝 お礼」の心がまだまだ足りない自分であることを改めて考えさせられると同時に、「感謝 お礼」という大切な心を改めて一層大切にしていかねばならないと思わせて頂いた私にとっての3学期でありました。



メタセコイア



高2探究

ロボットアイデア甲子園 全国大会に出場！

12月に東京都の機械振興会館で開催された「2024年ロボットアイデア甲子園全国大会」に、高2岡田隆生くんが出場しました。

大会に出場した岡田君は次のように感想を述べてくれました。「私にとって初めての全国



大会は、刺激的で学びの多い場だった。例えば、他チームのアイデアにはロボットの独創性と実現可能性が詰まっている、社会のニーズを再認識させられたことが大きい。アイデア発表に向けて準備を徹底的に行い、全力を尽くしたが、まだ改善の余地があると感じた。全国レベルの大会に参加できたことは貴重な経験であり、今後のモチベーションにもなった。この機会を活かして、ロボット産業に貢献していきたい。」

大会を通して刺激を受けた岡田くん。今後のますますの活躍が期待されます。

高2探究

第68回日本学生化学賞 読売新聞社賞受賞！

第68回日本学生化学賞の県審査が10月に読売新聞岡山支局で行われ、研究科学ゼミ轟木琉泉くん、山下晴聖くん、矢野心陽さん、吉田夢来さんの研究、「アレ

ロパシーの生育阻害に着目した木本の草本への効果」が読売新聞社賞を受賞しました。

「この研究を始めた当初は、研究がうまく進んでいくのか、結果をうまくまとめることができ

るのかと不安でした。しかし担当の先生方や仲間と共に試行錯誤を繰り返し、納得のいくものを完成させることができました。その結果、大きな賞を受賞でき本当にうれしく思います。今後も更に努力していこうと思います」と語るのは矢野さん。

四人は、3月16日に金沢で行われる「第66回日本植物生理学会年会 高校生生物研究発表会」にも出場します。四人の活躍の更なる発展を期待しています。



活躍おめでとう

高男子バレーボール部 全国大会出場

1月5日から東京体育館で行われた「第77回全日本バレーボール高等学校選手権大会」に、高校男子バレーボール部が出場しました。アタッカーとして活躍した高3池田耕大君に感想を述べてもらいました。

「1月5日に行われた第77回全日本バレーボール高等学校選手権大会に出場した。ベスト8以上を目標に試合に臨んだ。1回戦目福島県郡山北工業高校、2回戦目茨城県土浦日大高校と対戦し、どちらもストレートで勝利した。3回戦目滋賀県近江高



校と対戦し、近江高校のサーブに苦しみ、フルセットで負け、目標にしていたベスト8以上に届かなかった。しかし、小さい頃から憧れていた場所で開催された大会で、貴重な経験をすることができた。周りの皆に多くの感動を与えてくれました。今後のますますの活躍を期待しています。

高卓球部 中国大会出場

6月に岡山県で開催された第71回中国高等学校卓球選手権大会男子シングルの部に、高3白神巧志朗くん・齋藤一貴くんが、女子シングルの部に高3川上夏果さんが、男子ダブルスの部に高3白神くん・齋藤くんペア、高3岸本康平くん・藤井豊くんペアが出場しました。

試合を振り返るのは白神くん。
「高校最後の大会だったのでベスト8に入ることを目標にしていたが、団体戦

では出雲北陵高校に敗退し、ベスト16だった。シングルスとダブルスでは、2回戦で敗退。結果は残念だったが、最後の大会ということもあり、悲しくもあり楽しくもある大会だった。良い思い出ができたと思う。
私は高校だけでなく大学に入っても卓球を続ける予定なので、大学ではより一層卓球を頑張りたいと思った」
卓球部の皆さんの今後の活躍に期待しています。



高少林寺拳法部 中国大会出場

12月26日に山口市で行われた「第6回中国高等学校少林拳法新人大会」に、高2西山和志くん、渡邊康稀くん、天野蓮太郎くん、高1田淵伸太郎くん、寺崎心菜さんが出場しました。

高2渡邊くんは大会を終えての感想をお聞きました。

「私たち高校生6名は、12月に山口県で行われた中国大会に出場した。結果としては、みんな悔いが残る大会になってしまったが、上手な人たちの演武を直接見ることで、たくさん学びを得ることができた。また、今大会の反省を活かし、3月に岡山県で行われる全国大会では悔いの残ることがないように、これからも切磋琢磨していきたい。」

12月の大会で得た学びを、3月の大会で発揮されることを心より応援しています。



高陸上競技部 国民スポーツ大会出場

10月11日、15日に佐賀県のSAGAサンライズパークで行われた「第78回国民スポーツ大会」に、高1瀧本椰々さんが出場しました。少年女子B100mで見事第3位に入賞した瀧本さんに感想をお聞きました。



「私は、10月に行われた佐賀国民スポーツ大会に出場した。自分自身二度目の国体だが、昨年の鹿児島国体は怪我の影響で思うような走りができず、予選敗退で終わってしまった。国体の借りは国体で返したかったため、私は今年の国体は決勝に残ってやろうと頑張った。結果は3位だった。大会が終わった直後は嬉しい気持ちでいっぱいだったが、時間が経つにつれインターハイという大舞台で活躍するにはまだまだだと感じた。これから

今後のさらなる活躍をお祈りしています。

高放送部 中国大会出場

2月1・2日に鳥取県で行われた第10回中国地区高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会 朗読の部に、高1小平悠羽里さんが出場しました。

「私にとって今大会は初めてのブロック大会規模の出場となった。やはり他校の出場者はハイレベルで、その技術力には圧倒された。今大会では同時に研修会も開かれ、共通の話題について他校の生徒と意見交換をする機会が設けられ、自分の読みの長所、短所に気づくことができ、有意義な時間を過ごせた。これからは日々の練習とともに、言葉の意味や文脈の意図に注意し、『伝える』ということとを部として追求していきたい」と大会を振り返った小平さん。

今大会で得た学びを糧にした今後の放送部の活躍を期待しています。



活躍する卒業生

ある卒業生の歩み

四国旅客鉄道株式会社
西牧 世博（高26回卒）



私は、今年古希、70歳を迎える、金光学園の昭和49年の卒業生です。卒業して半世紀、50年を超えました。生まれは金光町で、実家は学園から北に400mの所にあります。幼稚園、中学、高校と学園にお世話になりました。小さい時から学園は身近な存在で、今は校舎が建っていますが、昔はテニスコートの北側のメタセコイヤに隣接して空き地があり、そこでよくソフトボールをした他、今は校門の前の川は閉水路になっていますが、敷地

の周りの川で魚を捕って遊んでいました。実家にはたまに帰るのですが、50年前とは違って学園の周りは田圃が住宅地が変わって、時の流れを感じます。

学園生活ですが、勉強は結構し、中学の時はトップクラスでした。しかし、高校に進学してだんだん成績が落ちていき、高2の時、よく指導してくれていた親しい先生から、「最近影が薄いよ」と叱咤され、少し挽回しました。それでも、当時あった備西模試では点は上がらず、大阪大学を受けましたが、不合格で浪人をしました。大阪の予備校で一年間受験勉強をしましたが、そこで感じたのは、授業がいかに大事かと言うことでした。予備校の授業は入試科目に特化した効率の良いものでしたが、基本を重視していません。翻って高校時代、国語、理科や社会の授業はなおざりにしていました。特に入試の点数配分の低い科目、現代文、生物、世界史は身が入らなかった科目でした。

一方、クラブ活動はほとんどしませんでした。これは、社会に出て、やってお

けばよかったと後悔しています。

大阪大学に一浪して進学しました。私が生まれた1955年から高校生の1972年までが高度成長期でした。その影響もあり、新幹線や高速道路を造ってみたいと思い、工学部の土木工学科に進みました。当時土木系は人気の学科で倍率も高かったのですが、時代が変わって土木の人氣も陰り、今では土木という名前の学科も数少なくなりました。土木を志望してよかったと思っていますが、たまたま私には合っただけで、余り時代の流行に迎合するのは良くないのかなと思います。入学した学科には学園の一年後輩のK君がいてすぐに気もあい、いっしょに大学院にも進み、今も親交がある良き親友となっています。大学の専門は本四架橋が計画されていた影響もあり、橋梁工学を学びました。これも結果的に後年良い結果を生みました。

就職は新幹線を造れると思い、旧国鉄の本社にしました。旧国鉄の本社採用は60人余りの採用数でしたがそのうち4割超が東大の卒業生でした。同期入社の人

は、今年古希、70歳を迎える、金光学園の昭和49年の卒業生です。卒業して半世紀、50年を超えました。生まれは金光町で、実家は学園から北に400mの所にあります。幼稚園、中学、高校と学園にお世話になりました。小さい時から学園は身近な存在で、今は校舎が建っていますが、昔はテニスコートの北側のメタセコイヤに隣接して空き地があり、そこでよくソフトボールをした他、今は校門の前の川は閉水路になっていますが、敷地

国鉄では、東京、旭川、稚内で勤務しました。北海道勤務では、瀬戸内海の穏やかな気候の良さを痛感しました。その後、東京の構造物設計事務所に転勤となりました。大学の時の橋梁工学の専攻が縁だったと思います。橋梁の設計に携わり、山陰本線の保津川橋梁などを担当しました。この橋は土木学会の田中賞を受賞しました。このような経験もあり、30歳になるまでに技術士の資格も取ることができました。

1987年に国鉄民営分割があり、思いもかけずJR四国に行くことになりましたが、当時からJR四国は厳しい経営が想定されていたため、行くのに躊躇しました。国鉄に在籍していた阪大の土木の先輩は私ともう一人を除いて全員JR西日本で、私も当然西日本だと思っていました。迷って先輩に相談したら、とりあえず行ってみて、いやになったら辞めたら良いと言われ、妻と長女を連れて四国に

来ました。今では亡き両親は実家に近いので良かったと思っていたと思います。JR四国では、10年弱工務部の技術系の仕事に従事していましたが、その後は経営企画室などの事務系の仕事をしました。2006年に取締役になり、総合企画本部長、鉄道事業本部長を歴任し、2020年社長、昨年から会長を務めています。社長に就任した直後、コロナが流行し、経営はかつてない危機に陥りましたが、退任する前の2023年度決算は黒字に回復できました。結局、いやにならず今もJR四国にいます。

〈経歴〉

1955年4月11日生 岡山県出身

- 1974年 3月 私立金光学園高等学校卒業
- 1979年 3月 大阪大学工学部卒業
- 1981年 3月 大阪大学大学院工学研究科修了
- 1981年 4月 日本国有鉄道入社
- 1987年 4月 四国旅客鉄道株式会社構造物検査センター所長
- 1999年10月 同 総合企画本部経営企画室担当室長
- 2000年 6月 同 東京事務所長
- 2002年 6月 同 岡山企画部長
- 2006年 6月 同 取締役鉄道事業本部工務部長
- 2010年 6月 同 常務取締役総合企画本部長
- 2017年 6月 同 代表取締役専務鉄道事業本部長
- 2020年 6月 同 代表取締役社長
- 2024年 6月 同 代表取締役会長（現職）

学園での教えでは、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」と食前訓「食物はみな、ひとの命のために天地の神のつくり与えたものぞ、なにを飲むにも食うにもありがたいたく心をわすれなよ」を今も覚え、心がけています。最後に、私は安岡正篤の本を愛読したのですが、この人が教訓として、1. 長い目で見ると（将来を見る）2. 広い目で見ると（多面的に見る）3. 物事の本質を見る（基本的、根本的に考える）をあげています。参考にしてください。後輩諸氏の検討を祈っています

だから私は海に潜る

鳥越 暁子

私の金光学園での教員生活はスキューバダイビング歴である。

教員一年目、同じ学年団にダイビングをしている先輩教員がいた。何かの折に「海の世界っておもしろそうですね」と私は言ったらしい（自分では覚えていないのだが）。3学期も半ば、「チケット取ったからね」と突然声をかけられた。オープンウォーターダイバーのライセンスを取る旅行の手配を先輩がしてくれたのだ。予想もしなかった流れではあったが、せっかくなので誘ってくれたのだからと断ることはしなかった。

そして春休みの始まり、私はフィリピンへ向かう飛行機の中にいた。空港で教本を受け取り、飛行機の中で、到着したホテルの中で、ひたすら勉強した。夜は、インストラクターから講義を受けた。フィリピンの街並みを楽しむ時間さえなかった。次の日の朝、私は小さな島にいた。木

さえ生えていない、歩いて1分で回れるような砂浜のみの島。「夕方に迎えにくるからね」とボートは私とインストラクターの2人を残して去っていった。

「じゃあ、器材つけて入ってきよ」とインストラクターは海の中へ入っていく。私は一人になった。小学生以来、海で泳いだ記憶もない。水泳も苦手だった。そんな私がぼつんと1人で取り残された。右も左も前も後ろも、すべて海。いや、唯一、目の前の海には人間が一人いる。孤独と絶望の中から見出した光が一筋を踏み出した。

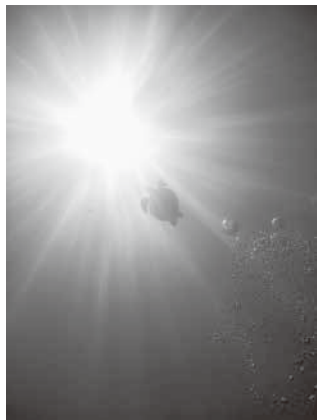
これが私のダイビング人生の始まりである。

1年後、またもや先輩に誘われて海に行った。ダ



来、夏の多くをそこで過ごすことになる。「あんたも好きねえ」と民宿のおばちゃんが無言のうちに迎えてくれる。夕方に海を見ていると、「こっちからだと夕陽がきれいだよ」と近所のおじさんが声をかけてくれた。人を受け入れる温かさがあちこちにあった。夏だけでなく、秋も冬も春も柏島に通った。「ただいま」と言える場所になった。

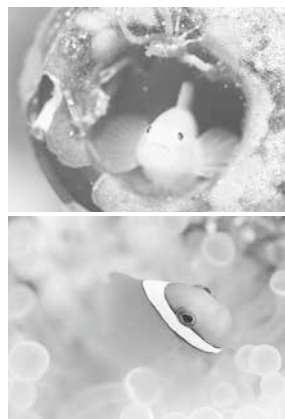
ダイビングの基本は、バディで潜ることである。器材を確認し合い、同じタイミングで潜行し、水中でも一緒に行動する。自分一人では気づけない危険もある。手助けを躊躇すると事故につながることもある。だから、自分自身の時間を楽しむながらも、周りに注意を払い、仲間を



思いやるのが大切になってくる。バディという信頼関係の中で潜っているせいか、陸に上がった後も、ダイバー同士は打ち解けて話をする人が多いように思う。海の夜はにぎやかである。さまざまなダイビング話を聞いていると、まだ行ったことのない海へのあこがれが強くなる。なぜこんなにも海にひかれているのであろうか。そんな気持ちを持っていた時に、写真家である星野道夫氏のエッセイ『悠久の自然』に出会った。アラスカで暮らしていた星野氏のもとを東京の友人が訪れ、一緒にクジラを追う旅をする。その友人が言う。

「仕事は忙しかつたけれど、本当にアラスカに来てよかった。なぜかって？東京で忙しい日々を送っているその時、アラスカの海でクジラが飛び上がっているかもしれない。そのことを知れただけでよかったんだ」

ああ、これだ、と思った。人間の生活とは違う、自然には別の時間が流れている。それを想像するだけで心が豊かになる。パラオの小さな魚たちは、今も流れの中で踊りながら暮らしているのだろうか。チュウクのサメたちは今日も立



イバーの楽園と呼ばれる南国パラオ。経験本数一桁の初心者が1年のプランクをもって挑むには、海の力は大きすぎた。マンタ待ちの根（岩礁）でエアがなくなり、ガイドのバックアップ空気源からエアをもらった。急激な流れの中、流されないように両手で必死に岩にしがみついている私の目の前を、5センチにも満たないカラフルな魚たちがひらひらと舞うように泳いでいた。その動きには余裕さえ感じられた。対して、自然の中でなすすべもなく翻弄されている自分の力の無さ。このままでは嫌だ。もっと強くなりたい。そうして私は次なるライセンスを取ることを決意した。

レベルアップの講習を受けるために私が向かったのが、高知県柏島である。以

ち泳ぎしながらクリーニング（掃除）されているのだろ。うか。柏島のカメラは今日も岩に付いた苔をムシヤムシヤ食べているのだろうか。自然の時間を思うと、忙しい日常から解放された気分になる。新たな自然の世界にまた出会いに行きたくなる。



日々の生活の中で、何が起るかかわからない。しかし、小さな出来事がきっかけで、その後の人生が大きく変わることだってあるのだ。今までやってなかったからと恐れずに、一歩踏み出してみることに。多くの人と出会い、関わり、やさしい気持ちを持つこと。そして、悠久の自然を感じることに。海から教えてもらったことはたくさんある。

そして、今年の春も、私は海へ向かう。

やつなみ保護者会のページ

ほつま祭・中高体育会

熱気あふれるほつま祭

中3保護者 三島 大尚

「今年のほつま祭は演劇で、僕は大道芸」という内向的な子どもらしい役目に納得感を覚えながらほつま祭当日を迎えました。私に通っていた時には体育館として使っていた小体育館の、当時と変わらぬ歴史を感じさせる佇まいを懐かしく思いながら中に入り観た演劇は、日頃のクラスの良い雰囲気伝わってくるとても温かい気持ちにさせてくれるものでした。

中学棟や高校棟など多くの教室の様々な展示を見て回りました。大きな声での呼び込みや、教室内の展示に対しての一生懸命な説明が、自分の言葉や考えでしっかりされていて驚かされ、また、校内を行き交う子どもたちの楽しそうな様子やほつま体育館での演技者への応援の掛け声、一緒にあって会場を盛り上げ楽しむ

姿を見て、学校全体が熱気にあふれた良い雰囲気にも包まれていると思いました。

一通り見学して、たまたま正面を通った時、受付係をしていた自分の子どもが、一般来校者の応対をしている姿をうれしく思い、金光学園で人間的にも成長させていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

最後になりましたが、ほつま祭成功にご尽力いただいた保護者会の皆様、日ごろからお世話になっております先生方に改めて感謝申し上げます。

笑顔いっぱい体育会

高3保護者 高橋 恵子

高校3年生の我が子にとって最後の体育会。9月とはいえ、朝からとても暑く、子どもたちの体調を考慮してプログラムも変更された体育会となりました。

100メートル走やリレーなどスピード感いっぱい競技、大縄跳びや30人31脚な

どのチーム競技も、それぞれに見応えがあり、それを応援する子どもたちも、とても楽しそうで見ているこちらも楽しくなりました。

特にチーム競技を応援する3年生の盛り上がりはすくなくて、仲の良さを感じることができました。楽しみにしていた「部活動リレー」がプログラムの変更で無くなってしまったのは残念でしたが、最後の体育会が大きな怪我もなく無事に開催できてよかったです。

長男が卒業して5年ぶりの学園生活。コロナ禍もありいろいろなことが長男の頃とは変わってしまいましたが、子どもたちと一緒に体育会を楽しむ先生方の姿は、変わることもなくとてもあたたか、とてもほほえましくホッとする一日でした。

一致団結した体育会

中3保護者 松本 人巳

中学校生活最後の体育会、前日まで組

旗の作成を行い、応援合戦のダンスを一から考えるなど各々担当に分かれて活動をしました。

我が子はダンスの振り付けが難しかったようで担任の先生の助言やクラスメイトに支えられ、何とか踊り切ることができました。

当日は晴天に恵まれ開催をすることができました。準備体操はラジオ体操ではなくオリジナルの体操で生徒たちの元気な掛け声に包まれました。100mや200m走では少しでも前にと全力疾走する姿、またクラス対抗や400m走ではメンバーが円陣を組む姿がとても印象的でした。ムカデ競争では足並みが揃わない時、一旦止まってそこから知恵を出し合い、一歩一歩と進む姿に心を打たれました。障害物競争は、毎年見ている側も童心に戻り、生徒が心の底から楽しんでいる様子が見られます。今年は現在大学1年生の保護者からの寄贈品である恐竜の借り物が五体登場し、会場を大いに賑わせてくれました。

午後一番は応援合戦。各クラス趣向を凝らした組旗とダンス。この日まで生徒たちは意見を出し合い、おそらく

卒業式

ステージに立つことは

音楽部吹奏楽団保護者 村田 晶子

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。

吹奏楽部で中2の娘がお世話になりました。娘が入部させて頂きました時には、演奏会を開くことができる環境となっており、すぐに楽器を吹かせて頂き、定期演奏会をはじめ、いろいろなステージに立たせて頂きました。

今年ご卒業の先輩方は、コロナ感染拡大の影響を受け、活動できなかった時期があったとお聞きしております。練習したくても十分にできないもどかしさ。それが自由に吹けるようになった時の喜びは大変なものだったと思います。

みんなで演奏すること、一つの曲の中でそれぞれの楽器が役割を担うということも経験され、同じ楽器の中でのハーモニーや、いろいろな楽器で合奏した時のハーモニーの素晴らしさを感じた時はもっと感動されたことでしょう。演奏することだけでなく、定期演奏会に向けての選曲や演出など様々なことをみんなで準備し、練習して作り上げるとい、とても貴重な経験をされています。そのステージが成功した時にはまた更なる達成感を味わったことと思います。

これまでの大きな経験を大切にして、そしてこれまでの経験をさらに活かしてそれぞれめざした道で飛躍されることをお祈り致します。

すばらしい歌声をありがとう

音楽部コーラス保護者 久川 裕子

娘が中学1年生からコーラス部に入部して丸五年がたとうとしています。入学してすぐにコーラス部に入ることになったと聞いた時には、本当に驚きました。人前で話をすることも苦手、ましてや歌を歌うなんて、この子にできるのだろうか、もしかしたらすぐ辞めてしまうので

はないかと、親の方がやさしかったです。しかしそんな心配をしたことを忘れるくらいに高校2年の現在まで、途中で投げ出すことなく続ける事ができました。これも顧問の先生方、多くの先輩、そして同級生のおかげだと思います。1年生に高校の先輩方が一から丁寧に教えてくださったことで歌うことの楽しさ、時に難しさを学ぶことができ、また同級生では一生の友達になれるような子とも出会うことができました。楽しいことばかりではなく、下級生に時には厳しく指導しないといけない時、嫌われるようなことは言いたくないけど言わないといけないこと、悩むこともありましたが、本人はつらかったかもしれませんが、いい経験をさせてもらったと思います。3月16日は高校2年の娘たちにとって最後のスプリングコンサートです。部活動としてもこれが最後になるので悔いの残らないすばらしいものになるよう、私も裏方として一緒に楽しんで笑顔で終われるようサポートしたいと思っています。

金光旋風

硬式野球部保護者 三宅 直樹

硬式野球部77期生32名、一人の中途退部者もなく卒部できたことに監督さんはじめスタッフの先生方に感謝を申し上げます。

金光学園には高校よりお世話になりました。入学当初は始めての寮生活、また学習の進み方が公立中学とのギャップもあり少し戸惑いもあった様に聞いていましたが、1年生の1学期終了の頃には少し慣れてきた様に感じました。

「学・徳・体」を大切にされている学校なので野球だけ頑張る事は目標と違う様で、この環境で三年間過ごした経験が今後、世のお役に立つ人材になれることと信じております。野球部は公式戦ベンチ入りが20人。77期生だけでも無理な選手が出る現実があります。チーム目標は甲子園で勝利でしょうが、個人としてはまずはベンチ入り、試合出場が目標となっていたと思います。

入部当初はみんな同列だった選手たちも次第にランク分けされ、2年生から活躍する選手もいて77期生にも多少のギャップがあったのかもしれませんが。どの時点からか選手達が「ありがたい」の言葉を連呼する姿を見て、同じ目標を持

つチームの連帯感が高まった様に思いました。

最後の夏大会では目標の「県制覇」は未達成でしたが3位表彰の結果でした。

結果以上に、夏大会にベンチに入れなかった選手が他校のデーターを分析する係となって頑張り、また77期生が先頭に立って応援する姿を見ると、チーム力は県内一まとまっていたように感じました。夏大会前あたりから「金光旋風」のフレーズも生まれ、夏大会では野球部員・保護者会全員、応援協力していただいた吹奏楽部・ダンス部の皆様、また現地・校内で応援して下さった先生方生徒の皆様、OB・OGの皆様方で一緒に金光旋風を吹かせることができたと感じました。

素晴らしい仲間ができたこと、今後選手皆の一生の財産になったと思います。

最後に週末もお休み無くご指導頂きました先生方に感謝申し上げます、「ありがたい」ございました。

経験を糧に

音楽部吹奏楽団保護者 横尾 慶子

ご卒業される3年生の皆様並びに保護者の皆様、ご卒業本当におめでとうござ

います。

期せずして発生したコロナという未知のウィルスの拡がりによって、中学時代は皆さんが想定していたものとは異なる形で部活動になってしまったと思います。そのような中でも、皆さんは自分たちでできる練習、活動を続けてこられました。制限が緩和され、できる活動が増えていったときには本当にうれしかったと思います。

部活動という、異なる年齢の集団で活動する中で、自分たちで考えながら行動し、運営をしていく経験は、皆さんの今後の人生に必ず活きていく貴重なものだと思います。

仲間と共に奏でる音楽は、聴く側である私たち保護者に毎回大きな感動を与えてくれましたが、演奏していた皆さんにとっても大きな達成感や満足感を与えてくれたのではないのでしょうか。

そのような演奏や発表の機会を積み重ねて、高3の定期演奏会まで頑張っ部活動を続けられたことは、皆さんにとっても大きな人生の糧となることでしょう。

卒業後の次のステージに進む皆さんが、

これまで以上に多くの経験をし、飛躍していけることをお祈りします。

編集後記

前へ

教養部部長 田頭 勉

とにかく「前へ」。

ためらわずに「前へ」を進め。それはつらく長い道のりかもしれないが、ゴールへの最も近い道であると僕は確信している。

「前へ」の精神は明治大学ラグビー部元監督の北島忠治氏が説いたものです。

一九二九年に明治大学法学部卒業と同時にラグビー部の初代監督に就任。28歳から以後亡くなるまで六七年間監督を務められ一九三六年、一九五六年にはラグビー日本代表の監督も歴任されました。北島監督は95歳で亡くなるまで八幡山のグラウンドに立ち続けられました。六七年もの監督生活の中で、選手たちに言い続けた言葉はただ一つ、「前へ」だったのです。細かい戦略を言うのではなく、厳しい指導で追い込むのではなく「前へ」の精神

で、弱小だったラグビー部を大学日本一にまで押し上げました。

北島忠治監督の「前へ」という言葉は、彼の生き方や考え方を象徴する一言です。彼は長年、ラグビーの指導者として多くの選手たちを育て、「人としての成長」をスポーツの枠を超えて説いてきました。

「前へ」という言葉には、ただ前進するだけではなく、困難や逆境にも立ち向かい、自分自身の限界を超えて進む勇気が込められています。ラグビーにおいても、仲間を信じてボールをつなぐ中で、チーム全体で「前へ」と進む精神が試されます。それは人生の中でも同じであり、自分の力だけでなく、周囲との信頼や支え合いが大切であることを北島監督は教えてくれました。

この「前へ」という言葉は、単に競技の中で指針ではなく、私たちが日々の生活で直面する課題にも通じる普遍的なメッセージです。迷いや不安に打ち勝ち、一歩ずつでも前に進む姿勢を忘れないようにすること。それ以上に、困難な状況でも逃げずに前へ進んで乗り越えていく

そ、勇氣を持つて半歩でも踏み出すことの価値を忘れずにいたいものです。その一歩が、今まで見えなかった新しい景色やチャンスをもたらしてくれるでしょう。

生き方を学んではいいという、そこそこが、北島監督の教えの本質なのです。この言葉は、時代や状況が変わっても、受け継がれるべき大切な教訓といえるでしょう。また「半歩でも前へ進めば景色が変わる」という言葉があります、この言葉は挑戦や前進の大切さが凝縮されています。人生では、行き詰まりや壁に直面することが多々あります。そのようなとき、つい立ち止まってしまったり、後退することを考えがちですが、たとえわずかな一歩でも、前に進むことで新たな景色が見えてくるものです。この「半歩」という言葉が示すように、大きな飛躍を求める必要はなく、小さな努力でも変化を生み出す力を持っているのです。

前に進むことは怖さを伴うかもしれませんが。不安や未知への恐れは自然なものです。しかし、一歩を踏み出せば、そこから見える景色は、立ち止まっていたときとは異なります。視点が変わり、新たな可能性や解決策が浮かび上がることもあります。その「半歩」が、未来を切り開くきっかけとなるのです。

人生は変化の連続であり、現状維持を望むことは停滞を意味します。だからこ

会報

第3回全役員会・第5回評議員会

2月20日（木）に第3回全役員会・第5回評議員会が開催された。主な報告事項は以下の通り。①令和6年度会計決算見込みについて②友愛セイル収益金について③令和7年度会長・副会長・監事の選出について④令和7年度の地区委員・評議員選出について⑤第6回評議員会のご案内⑥学校評価ご協力のお礼⑦令和7年度やつなみ保護者会総会について⑧金光教春の大祭の接待奉仕について

第6回評議員会

3月12日（水）令和6年度最終の評議員会が開催された。協議報告事項として、①令和6年度会務報告、②令和6年度会計収支決算報告、③令和7年度三役選考経過報告が行われ、全て拍手で承認された。

諸会合

○1月31日学校保健委員会。金光学園セミナール室。高戸副会長・植田指導部長参加。

「魅力ある学園となるための学校評価」実施の御礼とご報告 —学校活性化のために—

校長 金光 道晴

平成17年度（2005年度）より昨年度まで毎年「魅力ある教職員となるための診断（学校活性化のために）」として、クラス代表の生徒（各クラス10名）とやつなみ保護者会の役員の方（約100名）にお願いして、教職員についての評価と学校教育全体へのご意見をいただいています。しかし、今年度（令和6年度）より、学校教育並びに学校運営の改善を図ることを目指し、全保護者と全生徒に協力をお願いし、「学校評価」を実施いたしましたところ、保護者の皆様からは、中学校71%、高校58%の回答をいただきました。（生徒の回答は84%）お忙しい中ご協力を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

実施の結果は別ページ掲載の通りですが、多くの項目で保護者の皆様からも生徒からも高い評価（回答1と2）をいただいていますことは嬉しく有り難いこと

でした。特に生徒、保護者ともに高い評価をいただいている項目は「あなたは、充実した学校生活を送れていますか」「金光学園は異文化に触れることを通して、グローバルな視野を育成できるプログラムが充実していますか」「金光学園は部活動に積極的に取り組んでいますか」「金光学園の行事は、生徒が主体となり楽しむことができるよう工夫されていますか」などでした。

しかし、一方で「いじめのない学校づくり」「いじめ問題への対応」項目や、「きれいな学校」「施設・設備」などの項目についての評価は高いとは言えず（回答3と4）、真摯に受け止めていただき、今後の学校運営に反映してまいりたいと思います。

記述回答でいただいた具体的なご意見については、個々に検討をして対応させていただきたいと思えます。また、回答5（分からない）の割合が高い質問項目

については、今後はわかりやすく回答できるように、質問の仕方などを検討し改善してまいりたいと思います。

アンケート実施方法

〈保護者〉

・グーグルフォームによる無記名アンケート方式

・お子様が中学校に在籍されている場合は中学校で一回のみ回答してください。お子様が高等学校に在籍されている場合は高等学校で一回のみ回答してください。

お子様が中学・高校両方に在籍されている場合は中学、高校でそれぞれ一回回答してください。

・回答期間 1月8日（水）から2月7日（金）

・記述形式の回答も含む

・生徒

・グーグルフォームによる無記名アンケート方式

【保護者対象のアンケート結果】	中学(回答率：71.7%)					高校(回答率：58.1%)					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
1	お子様は、充実した学校生活を送れていると思いますか。	47.0%	27.7%	7.1%	10.7%	7.5%	44.2%	31.5%	12.3%	6.2%	5.8%
2	金光学園では、教育目標の基、合言葉を実践できる人材育成につとめていると思いますか。	26.1%	42.3%	15.0%	8.7%	7.9%	37.0%	34.2%	13.7%	7.2%	7.9%
3	お子様は、金光学園の生徒として誇りを持っていると思いますか。	35.2%	32.8%	14.2%	8.7%	9.1%	39.0%	30.1%	16.1%	7.5%	7.2%
4	金光学園の教職員は、教育に関する深い知識や理解力を持っていると思いますか。	28.5%	39.5%	11.9%	10.3%	9.9%	41.1%	33.6%	9.6%	6.2%	9.6%
5	金光学園の教職員は、向上心を持ち、自らが成長するための努力をしていると思いますか。	23.3%	34.4%	16.2%	9.5%	16.6%	36.3%	32.5%	11.0%	5.5%	14.7%
6	金光学園の教職員は、お子様の個性を認め、親身に、丁寧な対応をしていると思いますか。	36.4%	34.0%	11.1%	9.1%	9.5%	50.3%	26.0%	7.5%	8.6%	7.5%
7	金光学園の教職員は、公正なものの見方や考え方ができていると思いますか。	21.7%	39.9%	15.8%	9.1%	13.4%	32.9%	36.0%	13.0%	9.2%	8.9%
8	金光学園の教員は、丁寧な言葉遣いをするなど、人権を尊重する姿勢で教育活動を行っていると思いますか。	34.4%	32.8%	12.6%	9.5%	10.7%	41.8%	35.3%	9.6%	6.5%	6.8%
9	金光学園の教員は、熱心に授業に取り組んでいますか。	33.2%	33.6%	9.5%	7.5%	16.2%	41.1%	34.2%	7.5%	5.8%	11.3%
10	金光学園の教員は、学習指導において、学習習慣を身に付けさせることができていると思いますか。	17.4%	38.3%	28.5%	9.1%	6.7%	28.1%	33.9%	19.2%	8.9%	9.9%
11	金光学園の教員は、基礎基本を大切に、基礎学力を身に付けさせる授業ができていると思いますか。	20.6%	37.5%	19.8%	9.9%	12.3%	30.8%	34.9%	14.7%	8.6%	11.0%
12	金光学園の教員は、お子様が主体的に取り組める授業を行えていますか。	19.4%	37.5%	18.2%	8.7%	16.2%	27.4%	38.0%	12.3%	8.2%	14.0%
13	金光学園の教員は、デジタル教科書・すらら・スタディサプリなどのICT教材の有効活用ができていますか。	17.4%	39.1%	19.0%	11.1%	13.4%	23.6%	36.6%	16.1%	7.9%	15.8%
14	金光学園の教員は、学習に主体的に取り組めるよう、情報端末などを授業において有効利用ができていますか。	14.2%	39.1%	15.0%	10.7%	20.9%	26.4%	30.5%	14.7%	5.5%	22.9%
15	金光学園は、挨拶のよくできる学校ですか。	35.6%	34.4%	11.1%	8.7%	10.3%	36.6%	38.0%	11.0%	6.5%	7.9%
16	金光学園では、お子様にルールやマナーを守る大切さについての指導ができていると思いますか。	26.5%	41.9%	11.9%	10.3%	9.5%	31.5%	37.7%	15.4%	8.2%	7.2%
17	金光学園は、「きれいな学校」を目指して、校内美化に取り組んでいますか。	33.6%	32.8%	11.9%	13.4%	8.3%	32.5%	40.8%	11.0%	7.9%	7.9%
18	金光学園は、地域と協働することなどを通して、地域との信頼関係を築くように努めていると思いますか。	28.9%	29.2%	9.1%	9.5%	23.3%	35.6%	36.0%	8.6%	5.8%	14.0%
19	金光学園の行事は、お子様が主体となり楽しむことができるよう工夫されていると思いますか。	48.2%	26.1%	6.7%	9.1%	9.9%	45.5%	31.5%	9.2%	6.5%	7.2%
20	金光学園では、異文化に触れることを通して、グローバルな視野を育成できるプログラムが充実していますか。	44.7%	29.6%	7.1%	9.1%	9.5%	50.3%	26.7%	6.8%	6.8%	9.2%
21	金光学園は、ボランティア活動に取り組みやすい環境だと思いますか。	19.8%	32.0%	17.0%	9.5%	21.7%	30.1%	36.3%	14.0%	7.2%	12.3%
22	金光学園は部活動に積極的に取り組んでいますか。	51.0%	22.9%	9.1%	7.5%	9.5%	53.4%	24.0%	6.5%	8.9%	7.2%
23	金光学園の教員は、お子様の個性を活かし、尊重したうえで、きめ細かい進路指導を行っていますか。	22.1%	36.0%	18.6%	7.1%	16.2%	37.0%	36.0%	12.3%	6.2%	8.6%
24	金光学園では、命を大切にする姿勢や、多様性を尊重する態度を育てようとしていると思いますか。	24.5%	38.7%	12.3%	10.3%	14.2%	33.2%	36.0%	12.7%	7.9%	10.3%
25	金光学園は、いじめのない学校づくりに取り組んでいると思いますか。	17.0%	41.5%	16.6%	10.3%	14.6%	27.4%	34.9%	14.4%	8.9%	14.4%
26	金光学園では、いじめ問題への対応をチームとして迅速かつ丁寧に取り組んでいると思いますか。	17.0%	33.6%	15.8%	9.9%	23.7%	26.0%	29.8%	14.7%	7.5%	21.9%
27	金光学園の施設・設備に満足していますか。	18.2%	37.2%	25.7%	12.3%	6.7%	17.5%	40.4%	24.3%	13.0%	4.8%
28	金光学園では、生徒の様子をホームページやSNS、通信などを通じて、分かりやすく発信していると思いますか。	39.5%	30.8%	11.9%	7.5%	10.3%	38.0%	36.0%	10.6%	7.5%	7.9%

1……とても思う または とてもあてはまる 2……やや思う または ややあてはまる 3……あまり思わない または あまりあてはまらない
4……全く思わないまたは全くあてはまらない 5……分からない

【生徒対象のアンケート結果】	中学(回答率：85.0%)					高校(回答率：82.5%)					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
1	あなたは、充実した学校生活を送れていますか。	42.2%	40.1%	9.9%	5.1%	4.8%	41.4%	34.5%	10.2%	7.2%	6.7%
2	金光学園では教育目標のもと、合言葉を実践できる人材育成につとめていると思いますか。	25.5%	43.9%	18.7%	4.8%	9.2%	30.1%	30.8%	23.6%	6.5%	8.9%
3	あなたは、金光学園の生徒として誇りを持っていますか。	35.4%	34.7%	18.4%	4.1%	9.5%	28.4%	32.8%	22.4%	7.0%	9.4%
4	金光学園の先生は、教育に関する深い知識や理解力を持っていると思いますか。	40.5%	39.8%	10.5%	5.1%	6.1%	36.4%	36.9%	14.7%	5.3%	6.7%
5	金光学園の先生は、向上心を持ち、自らが成長するための努力をしていると思いますか。	29.3%	40.5%	15.3%	6.5%	10.5%	31.1%	34.5%	19.0%	4.8%	10.6%
6	金光学園の先生は、生徒の個性を認め、親身に、丁寧な対応をしていると思いますか。	37.8%	35.4%	16.7%	5.8%	6.5%	39.0%	32.8%	13.3%	8.0%	7.0%
7	金光学園の先生は、公正なものの見方や考え方ができていると思いますか。	28.9%	40.8%	17.3%	9.9%	5.1%	28.0%	30.8%	23.6%	8.4%	9.2%
8	金光学園の先生は、丁寧な言葉遣いをするなど、生徒の人権を尊重する姿勢で教育活動を行っていると思いますか。	29.9%	41.8%	16.7%	7.1%	6.5%	34.2%	33.0%	18.1%	7.0%	7.7%
9	金光学園の先生は、熱心に授業に取り組んでいると思いますか。	52.4%	33.3%	8.8%	2.7%	4.8%	45.5%	33.5%	9.4%	4.3%	7.2%
10	金光学園の先生は、学習習慣を身に付けることの大切さについて教えることができますか。	41.8%	39.8%	10.9%	5.1%	4.4%	42.2%	33.0%	12.0%	4.8%	8.0%
11	金光学園の先生は、基礎基本を大切にしたり分かりやすい授業が行えていますか。	40.8%	37.4%	12.9%	5.8%	5.1%	31.3%	37.8%	16.4%	8.0%	6.5%
12	金光学園の先生は、生徒が主体的に取り組める授業を行えていますか。	35.4%	41.2%	12.2%	7.5%	5.8%	29.9%	34.7%	20.2%	6.7%	8.4%
13	金光学園の先生は、デジタル教科書・すらら・スタディサプリなどのICT教材の有効活用ができていますか。	33.0%	37.1%	17.7%	8.5%	5.8%	29.2%	30.4%	20.7%	12.0%	7.7%
14	金光学園の先生は、学習に主体的に取り組めるよう、情報端末などを授業において有効利用ができていますか。	46.6%	37.1%	8.8%	4.8%	4.8%	43.9%	31.3%	11.1%	6.7%	7.0%
15	金光学園の授業は、説明が分かりやすく、生徒が興味を持つよう工夫されていると思いますか。	31.0%	43.5%	16.3%	6.5%	4.8%	26.0%	35.7%	24.6%	5.8%	8.0%
16	金光学園の授業には、自分の考えをまとめたり、表現したりする場面がたくさんあると思いますか。	34.0%	40.5%	16.7%	6.1%	4.8%	24.8%	35.9%	23.9%	8.0%	7.5%
17	金光学園は、挨拶のよくできる学校ですか。	27.6%	35.7%	23.5%	8.5%	6.8%	25.1%	33.3%	20.2%	12.3%	9.2%
18	金光学園では、ルールやマナーを守る大切さについての指導ができていますか。	31.3%	40.1%	18.7%	7.1%	4.8%	28.2%	34.7%	19.0%	11.1%	7.0%
19	金光学園は、「きれいな学校」を目指して、校内美化に取り組んでいますか。	22.8%	42.5%	18.0%	12.9%	5.8%	25.3%	31.1%	22.7%	12.0%	8.9%
20	金光学園は、地域と協働し、地域との信頼関係を築くように努めていると思いますか。	28.2%	37.8%	21.1%	8.2%	6.8%	26.5%	26.7%	25.1%	8.2%	13.5%
21	金光学園の行事は、生徒が主体となり楽しむことができるよう工夫されていると思いますか。	58.5%	28.6%	7.1%	3.7%	4.1%	39.8%	28.9%	14.0%	9.9%	7.5%
22	金光学園では、異文化に触れることを通して、グローバルな視野を育成できるプログラムが充実していますか。	54.1%	32.0%	4.8%	3.4%	7.8%	50.8%	26.5%	8.9%	5.1%	8.7%
23	金光学園は、ボランティア活動に取り組みやすい環境だと思いますか。	28.2%	39.8%	19.7%	6.1%	8.2%	41.7%	24.8%	16.9%	6.3%	10.4%
24	金光学園は部活動に積極的に取り組んでいますか。	63.3%	25.2%	4.4%	4.4%	4.8%	53.7%	26.0%	6.7%	5.5%	8.0%
25	金光学園の先生は、生徒の個性を活かし、尊重したうえで、きめ細かい進路指導を行っていると思いますか。	30.3%	38.8%	12.9%	5.4%	14.6%	39.3%	32.8%	13.3%	5.3%	9.4%
26	金光学園では、命を大切にする姿勢や、多様性を尊重する態度を育てようとしていると思いますか。	38.8%	38.4%	12.9%	4.8%	7.1%	35.7%	31.1%	14.9%	8.2%	10.1%
27	金光学園は、いじめのない学校づくりに取り組んでいると思いますか。	25.2%	33.0%	22.8%	12.2%	8.8%	25.5%	25.3%	24.1%	10.8%	14.2%
28	金光学園では、いじめ問題への対応をチームとして迅速かつ丁寧に取り組んでいると思いますか。	24.5%	29.6%	19.0%	12.9%	16.0%	25.5%	21.4%	21.9%	11.3%	19.8%
29	金光学園の施設・設備に満足していますか。	26.5%	39.5%	22.4%	9.2%	4.4%	25.1%	28.2%	24.1%	14.9%	7.7%
30	金光学園では、生徒の様子をホームページやSNS、通信などを通じて、分かりやすく発信していると思いますか。	35.4%	31.3%	14.3%	4.4%	15.3%	35.4%	28.7%	16.1%	6.0%	13.7%

1……とても思う または とてもあてはまる 2……やや思う または ややあてはまる 3……あまり思わない または あまりあてはまらない
4……全く思わないまたは全くあてはまらない 5……分からない

国際交流活動報告

今年度もたくさんさんの留学生が金光学園で過ごしました。

タイから来たモンチャイ君は、昨年4月9日〜2月2日まで高1〜4組で過ごしました。



「本当には自分は何をしたいのだろうか？」数年前に自分が自分自身に尋ねた質問です。7歳のころ、日本で生活することを考え始めました。その日からその夢を実現させようと決めて頑張ってきました。これは僕の夢であり、旅であり、休暇でもありました。何百もの学生が応募

し、僕は留学生として選ばれました。

日本での生活の最後の月になりました。多くを学び、多くの人に出会い、多くのことを経験しました。金光学園で過ごす機会をくださった学校にお礼を言いたい。学校ですべての先生方、特にクラス担任の先生や助言してくれた先生にも感謝の気持ちでいっぱいです。先生方はいつも親切で僕のことを気にかけてくれました。剣道を経験する機会をくださったので僕の部活の先生にも感謝しています。最後に友達みんなにもお礼を言いたいです。みんな僕の助けになってくれたしフレンドリーでした。僕の留学という旅は終わりに近づいています。本当にすべてのこと、ありがとうございます。また会いましょう。

本校の姉妹校であるラッドフォード校からやって来たセオ君は高1〜3組で、アビさんは2組で、昨年12月9日〜1月18日まで過ごしました。



アビさん

セオくん

僕の名前はセオです。僕はオーストラリアから金光学園で留学をしに来ました。来る前に、少し緊張しましたが、みんなさんはとても優しくかったです。そして、たくさん友達できました。先生たち、ありがとうございます。授業を理解するようにがんばりました。

学校いがいに、色々な活動をいっぱいしました。たとえば、軽音とソフトテニスをやるのが楽しくて大好きでした。オーストラリアでクラブ活動はあまりないから、金光学園のいい点だと思います。

もっと新しい部活をやってみたいです。全体的には、すごく楽しい経験でした。

モダンな事と伝統的な事もどちらもしました。大阪のUSJに行ったり、カラオケをしたり、買い物をしたりしました。そして、お寺に行ったり、お正月をお祝いしたり、伝統的な食べ物を食べたりしました。オーストラリアの食べ物と比べたら、日本の料理はもっと美味しいと思います。だから、オーストラリアに帰ったら、また日本の料理を食べたいです。(^^)

僕のホストファミリーにはたいへん感謝しています。一緒に、たくさん楽しいことをしました。一緒に晩ご飯を食べることが大好きでした。一緒に遊ぶことが大好きでした。日本にいる時間、僕はいつも本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

When I go Home, I will miss Japan and everyone I met here. This has been one of the best times of my life. I hope I will meet some of you again one day. への経験をずっと思い出します。

こんにちは、アビです。6週間前金光

学園に来た。皆さんは私を歓迎してくれました。優しい人たくさんいます。授業で勉強することは面白かった。最終日、たこ焼きパーティーがあって、初めてたこ焼きを食べました。日本のクリスマスとお正月とオーストラリアのクリスマスとお正月はとても違います。日本でクリスマスよりお正月の方が大事です。クリスマスケーキ食べた、プレゼントをあげた。お正月の方が忙しかった。除夜に、11時半に、お寺の鐘をうりました。うった後で、ぜんざいを食べました。お正月に初日の出をみて、とてもきれいだと思いました。初もうでに行った時、御守りを買いました。4日から5日USJに行って乗り物にたくさん乗りました、楽しかった！オーストラリアに帰るのは悲しいです。この旅をずっと忘れません。3組や茶道部やホストファミリーなど本当にありがとうございました。

表紙の言葉

中1 伊東 果穂

「冬菊のまとうはおのがひかりのみ」という俳句を絵にしました。私はこの俳句から、冬菊が日にあたって光っているように見えている風景を想像しました。

この版画で一番工夫したところは、冬菊が日に光っているみたいに見えるようにしたこと。そのために、シャボン玉を描きました。シャボン玉が光っているみたいに見えたからです。

背景も工夫しました。版画でしか表せないような彫り跡になりました。それを三つの緑色で塗り、葉っぱを表現しました。

一番大変だったところは、冬菊を彫るところです。冬菊を小さくデザインし過ぎたので大変でしたが、冬菊の色も複数の黄色をつかって色を塗りました。

ある日のホームルーム



高校1年4組

1月31日
(金)の5時
間目に高校1
年4組は、モ
ンチャイ・ク
ルトンくん
(愛称ピース)
のお別れ会を
行いました。



ピースは、タイからの留学生で、4月
から1月までの10ヶ月間、4組の仲間と
して過ごしました。日本語がほとんどわ
からない状態で来日したピースでしたが、
早く友だちと仲良くなりたいと、全ての
授業に参加しました。4月のHR開きや
一日旅行などを通して、すぐにクラスメ
イトと仲良くなったピース。休み時間
には、友だちとふざけて走り回る姿も見ら

れました。

今日の送別会は、運動が大好きなピー
スに合わせて、体育館でゲームをするこ
とになりました。学級委員を中心に送別
会で何がしたいかを話し合い、多数決の
結果、ドッジボールとケイドロ(警泥)
をすることになりました。

当日は、まず校長先生からピースへの
修了証書の授与がありました。校長先生
からは、修了証書だけでなく、扇子のお
土産もいただきました。その後、ピース
と校長先生で写真を撮り、せっかくの機
会だからと校長先生とピースを囲んで、
クラス全員で集合写真を撮りました。

さて、学級委員の司会でいよいよお別
れ会のスタート。最初はドッジボールで
す。男子と女子に別れて、出席番号の奇
数の人対偶数の人で対戦しました。「オ

リヤアー」「ぎゃー」などの叫び声があ
ちこちから聞こえるほど、白熱した戦い
を繰り広げていました。次は、男女混合
で対戦です。さすがに男子のボールは強
力すぎて、女子は逃げるのに精一杯とい
う感じでした。高校生ともなれば男子は
女子に気を遣い、ボールを当てる時も優
しく当てていました。ピースは4月の学
級開きで初めてドッジボールを経験し、
今回が二回目です。皆とワアワアいいな
がら逃げたり、ボールを投げたりと笑顔
で楽しそうにしていました。

ドッジの次はケイドロ(警泥)です。
学級委員の「警察になりたい人ー?」の
呼びかけに男女数人が立候補しました。
陣地を決め、警察役はビブスを着て、ケ
イドロがスタートしました。体育館は広
く、人数も多いので、警察役は走りっぱ

なしで、10分も立つとくたくたになっ
ていました。

最後は、ピースへのプレゼントと色紙
の贈呈式です。プレゼントは、干支(子
年)のお箸、おにぎり、富士山、こけし
の箸置き、クラスの集合写真が入った写
真立て、特製アルバムにしました。ピー

スは大喜びしてくれましたが、なんと箸
はすでに何本ももらっていたようでした。
ピースには「とても楽しく過ごせました。
みんな本当にありがとう。」と言っても
らいましたが、ピースの存在が、クラス
の生徒たちへの良い刺激になっていまし
た。こちらこそありがとう、ピース!



中学 体育会



受け継ぐ人

3年3組 木村 泰喜

僕たちの中学校生活3年間の集大成ともいえる最後の体育会が、ついに終わりました。凍てつくような寒さの中で無事にできるのかという気持ちもありましたが、特に事故もなく清々しい気持ち青空の下で行うことができました。終わった後の今ではとてもよかったという充実感と中学生の内はこれで最後なのかという寂しさが残っています。

毎年のことですが、今年も色々な出来事がありました。レースの応援が楽しかったり、綱引きで練習のようにいかず苦戦したり、四人四脚で転びそうになって騒いだりなど、嬉しいことも悔しいこともたくさんありました。その中でもとりわけ印象的で嬉しかったことがあります。それは、兄弟学級みんながダンスを覚えて踊ってくれていたことです。正直今年のダンスは自分達でも踊れるか怪しいくらい難しかったのに、ちゃんと踊れていました。もちろん団長たちの指導もあるでしょうが、自主的に練習してくれたのだと思います。

僕がこの体育会を通して感じたことは、



人から人へと物事や想いを伝えていくことは、すごいことだと思います。僕が1年生の時はダンスを教わって覚える側でした。その時はなんとか覚えようとしていたのですが、今の1年生も同じ気持ちだったのでしょうか。そして当時の3年生も今の僕たちのような気持ちだったのでしょうか。このように想いは志が同じならば意識せずとも受け継がれていくのです。これは当たり前のようにでもあり不思議です。ごい事のようにでもあります。これから先輩や親の想いを受け継ぎ、伝えていきたいです。

団結力

3年4組 生藤 紗知

今年の体育会はきれいな快晴の空で行われた。予定をしていた9月に開催することができず、11月に体育会をすること

になった。11月は少し肌寒かったが、寒さを感じないくらいみんなの熱気に包まれ、私も自然とやる気が出て熱心に、そして楽しく体育会に取り組むことができた。

私が今回の体育会でまず感動したことはみんなの団結力だ。競技中に、ドラム缶を力強く叩いてエールを送ったり、「頑張れ！」「おしい！」「あともうちょっと！」など休むことなく大きな声で応援したり、一人一人が兄弟学級のクラスを応援していた。その中でも、4組は2年生がいなのに一生懸命に2年生の子たちを応援している姿を見て、当たり前前ではないことを当たり前にしていく、4組はそんな良さがあるなと気づいた。綱引きでは、みんなで掛け声をして一人一人が熱心に息を合わせ引く張ったからこそ、1位をとることができた。

私が最も嬉しかったことは、応援合戦の部で優勝したことだ。私は今回チアリーダーをした。4組は2年生がおらず、1年生と3年生だけであるため、どのように応援合戦でみせたいのかわからなかった。だが、人数が少ないからこそ、みんなが一つにまとまって団結し大きく



みせることができたのだと思う。一人一人が応援合戦に熱心に取り組んでいる姿を見て、四組は素敵なクラスだと改めて実感した。

体育会を通して更に4組の絆が深まり、団結することの大切さを改めて知ることができた。残り半年もきった中学3年生を最後まで楽しみ、たくさん思い出をつくっていきたい。

大切なこと

2年2組 近藤 克信

僕は今回の体育会を通して2つのことを学びました。1つ目は、協力することの大切さです。今回の体育会では、チアリーダーの人が積極的に2組を上手くまとめてくれていました。いつもの2組はざわざわしていますが、元気なクラスです。そのクラスをチアや団長の人が、元気を利用して声を出す時と出さない時のメリハリをつけさせ、応援合戦でうまく活かしていました。そのため、ウェーブのところはみんな大きな声が出ていました。競技中、先輩たちを中心にみんなで応援をしました。僕は部活動の顧問の先生に「他人を応援できる人は、応援される人

になる」と言われたことがあります。部の試合の途中で交代させられた時は、どうしても「何で交代させられたんだろう」と考えてしまい、応援することができませんでした。だから、他人を応援している先輩たちはとてもすごいと思い、尊敬しています。自分が出ているわけではなく、みんな協力して勝利をつかもうとしているところが、とてもいい兄弟学級だと思いました。

2つ目は人と話すことの大切さです。僕は今回、積極的に人と話すことを心がけました。そうすることで、副チアや実行委員の人と仲良くなることができました。分らないことがあれば気軽に聞けたことがとても良かったです。だから僕は、先輩を中心に交流を頑張りたいと思います。来年は僕らが頼られる方なので、何かわ



なことがあれば気軽に聞けたことがとても良かったです。だから僕は、先輩を中心に交流を頑張りたいと思います。来年は僕らが頼られる方なので、何かわ

からないことがあれば聞きやすい先輩でいたいと思いました。応援合戦の部の結果は残念でしたが、来年は今年以上に頑張りたいと思います。

運動が苦手でも

1年2組 松永 篤

僕が初めての体育会で心に残ったことは二つあります。

一つ目は応援合戦です。最初の練習のときは、「ダンスをするのは嫌だな」と思っていました。が、だんだんと練習の日数を重ねるたびに、それにもなつてやる気も増していき、放課後の3時から4時半までの間がとても短く感じられるようになりました。さらに、4時半から下校時刻の5時半まで、自主練をするようになりなりました。

二つ目は、部活動で行った放送です。私は900メートル走の実況と、4組の応援合戦の際の紹介をしました。初めての体育会ということもあり、たくさん家や学校でしっかりと練習してきましたが、実際にその場に立つと、緊張し、思うように口が動きませんでした。なので、これからの行事での放送で慣れていこうと思います。



ます。あと、これを機に放送部の先輩と少し仲良くなることができてよかったと思います。

僕は運動が苦手であり体育会は少し嫌だと思っていました。が、実際に練習していくうちに、少しずつ楽しみななつていきました。こんな風に運動が苦手な僕を、体育会を楽しみにさせてくれた兄弟学級の先輩方、放送部顧問の先生、放送部の先輩方には、とても感謝しています。来年は自分で楽しみにできるよう、運動も頑張っていきたいと思いました。

生徒会活動

《中学生徒会》 次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月8日に公示され、中1・2の7クラスから男子8名、女子2名の計10名が立候補した。15日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。21日の公開質問会では多くの質問が出され、候補者の考えを更に理解できるよい機会となった。24日の投票の結果、会長に2年の田中幸太郎くん、副会長に2年の荒木悠くん、1年の黒田あこさんが当選した。新事務局員募集のための説明会を行った。しばらくは現事務局員と一緒に活動し、3月11日の春季球技大会や3月18日に行われる中学ゆずり葉の会などの準備の中で、段取りや運営の仕方を身に付けていく。最終的には新年度になってから新事務局員を決定する。

《高校生徒会》 12月16日(月)に岡山県議会議場で行われた「岡山県高校生議会」に、生徒会執行部から3名が参加し、「観光振興」と「交通事故死者数を減らす取り組み」について、産業労働警察委員会

委員長(県議会議員)と論戦を交わした。

2月7日(金) 6限に、第二回生徒会総会がオンライン形式にて行われた。今年度の各種専門委員会、学年代表者会議、生徒会執行部の活動総括について審議され、すべて原案通りに承認された。

《天文部》 11月16日、JAXA稲谷芳文先生の特別授業「はやぶさと日本の宇宙科学」を希望者10名で受講した。今回は全3回の特別授業のうちの最終回で、サンプル回収カプセルの任務を中心に、ロケット先端部に取り付けられたカメラで撮影された動画視聴などもあり、はやぶさプロジェクト全容を学べる良い機会となった。講義後には積極的に質問を行い、学びを深めることができた。

《書道部》 11月に岡山県天神山文化プラザで開催された「第37回岡山県高校生書道展覧会(総文祭)」に高校生6名が作品を出品した。

《木崎崎ボランティア部》 わかばプロジェクトの3学期土曜スクールに来ている小学生と、毎週楽しく活動をした。2月1日には、部員の企画で、集団ゲーム、ストロー斜塔、紙飛行機飛距離競争など、小学生が探求心をもって取り組める内容

を考え、実施した。

《茶道部》 12月～1月18日までRadford Collegeからの留学生アビさんも参加し、一緒にお稽古を行った。茶道体験を通して国際交流をすることができた。12月19日のお稽古では、11月と12月に代理で来てくださった喜多村先生が濃茶を練ってください、みんな濃茶をいただいた。濃茶の作法などについても学んだ。1月16日には初稽古に合わせて初釜を行った。

《中・高新聞部》 2月28日に、ほつま新聞第212号を発行した。

《中放送部》 11月の中学体育会、1月の中学生徒会長選挙、3月の球技大会、中学ゆずり葉の会といった学校行事の際には放送機材のセッティングや司会進行などをを行った。

《高放送部》 2月15日の高2音楽選択者発表会、28日の高校卒業式では放送機材のセッティング等を行った。また、2月1日～2日にかけて鳥取県で行われた第10回中国地区高校放送コンテストならびに校内放送活動研究会鳥取大会の朗読部門に、高1小平悠羽里が出場した。

《生物部》

中学生が1名入部し、中学生

23名、高校生9名、計32名で活動している。昨年度から準備をしていた猪の骨格標本作成も佳境に入り、部員も意欲的に制作している。来年のほつま祭で披露できるように、今後も続けていく。また、多くの生物の飼育を行っており、生物室の水槽も充実してきた。冬の期間は野外で採集できる生物も少ないが、春を待ちながら生態観察を続けていく。

《科学部》 毎週月曜日と金曜日に、興味を持った内容について調べ、試行錯誤しながら楽しく実験を行った。1月11日に行われた浅口市主催「まなぼーや さつきっ子教室」科学工作にボランティアとして参加し、小学4年生から6年生と一緒に「割りばしでつぼう」を作製し、遊ぶ手伝いをした。

《ダンス部》 12月15日 金光公民館で行われた浅口キッズフェスティバルに中学生が参加。日頃の練習の成果を発揮した。《音楽部吹奏楽団》 11月8日（金）ほつま体育館にて創立記念式が行われ、「校歌」「君が代」「神人の栄光」「愁陽の路」「空より高く」を演奏した。11月23日（土）倉敷市民会館にてバンドフェスティバルが行われ、「波を越えてはるかに」「シユ

ガーソングとビターステップ」「おジャ魔女カーニバル」を岡山県立倉敷青陵高校さんと合同演奏をした。12月7日（土）ふれあい交流館寄島サンパレアにて浅口音楽フェスティバルが行われ、「20世紀FOXファンファーレ」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「ワタリドリ」「明日はきつといい日になる」を演奏した。1月25日（土）倉敷市マービールふれあいセンターにて第68回高梁川流域連盟高等学校音楽会 ジョイフルコンサートが行われ、「アウローラⅡ」朝陽に満ちて」と、エンディングの「私のたからもの」を演奏した。

《音楽部コーラス》 12月14日（土）に高梁総合文化会館で開催された岡山県高等学校合唱祭に参加した。例年は6月開催であるが、今年度は5月に全国植樹祭がありこの時期となった。県内の合唱部同士の演奏を聴き、ともに歌うことで良い刺激を受けることができた。

【曲目】「さよならまたいつか」「麦の唄」「合同曲」はじまり

1月25日（土）に総社市民会館で開催された高梁川流域連盟高等学校音楽会「ジョイフルコンサート」に参加した。吹奏楽部と共によい演奏会にすることが

できた。

【曲目】「Family Song」「ケセラセラ」《軽音楽部》 3月の発表会に向けて、ミーティングを行い、日々熱心に活動しながら、演奏技術に磨きをかけている。

《中男子ソフトテニス部》 12月7日に井原公園で行われた秋季チャレンジカップでは、I部に2ペアが出場し、奥野・鳴本ペアが2回戦、田村・仁科ペアが3回戦敗退であった。II部には5ペアが出場し、岡森・上松ペアが優勝を果たした。川野・小山、金藤・木曾、中野・田中、仁科・片岡は予選リーグ敗退であった。12月14日の第3回あぐり中学生ソフトテニス大会では、7ペアが出場し、中野・田中、金藤・木曾、仁科嘉・OPペアが初戦敗退、川野・小山、岡森・上松、奥野・鳴本、田村・仁科陸ペアが2回戦敗退であった。12月22日にこざなくんスポーツパークびんごで行われた西日本メーブルカップ団体戦に出場し、決勝トーナメント初戦敗退であった。

《高男子ソフトテニス部》 秋以降は大会への出場はないが、春に向けて練習に取り組んでいる。

《高陸上競技部》 全国高体連中国四国地

区選抜合宿が広島県で開催され瀧本椰々子、水流和々花、佐藤地央が選出されて参加した。

《中陸上競技部》 岡山県中体連陸上競技部強化練習会が開催され矢部佑晟が選出されて参加した。

岡山陸上競技協会中学生強化練習会が開催され小野礼翔が選出されて参加した。《ラグビー部》 令和7年1月3日（金）に正三会（OB会）を実施した。二十代～六十代の多くの卒業生が集まり、一緒に練習を行い、交流を深めることができた。卒業生からの寄付などで新たに購入したラグビーボールを設置し、集合写真の撮影を行った。現在は、選手1名、マネージャー1名の2名だけの部員であるが、練習に励んでいる。

《中卓球部》 12月15日に全国中学選抜岡山県予選会に参加した。予選リーグで倉敷北に1-3で敗れ、東山に3-2で勝ち、2次トーナメントで岡大附属に2-3で敗れた。

12月26日に山陽新聞社杯に参加した。中学1年生の部で浅野（L1）がベスト64に入った。

1月19日に井原卓球協会後期個人戦に

参加した。男子2・3年の部の予選リーグで下久保（L3）、東（L3）が1位、黒川（L3）、金子（L3）、松岡（L3）、大橋（L2）、樋口（L2）、宮田（L2）が2位、秋田（L2）、藤井（L2）が3位となった。男子1年未満の部の予選リーグで浅野、山下（L2）が2位で、古城（L3）が3位、浅原（L3）が4位となった。女子2・3年の部の予選リーグで渡邊（L2）が2位で、板野（L2）と鈴木（L2）が3位となった。女子1年未満の部の予選リーグで萩野（L1）が4位となった。

《高卓球部》 11月10日（日）総社市長杯争奪卓球大会にU3白神が出場した。

11月17日（日）広島県府中市で行われた宗歳杯争奪卓球大会に出場し、U1藤井がベスト16に入った。

11月23日（土）リーグ岡山リベッツVST.Tといたまの試合にて高校男子部員が、翌24日（日）は同じくリーグ岡山リベッツV.S金沢ポルトの試合にて高校女子部員及び中学3年生部員が大会補助員として活躍した。

11月24日（日）岡山県加盟団体戦にて男子チーム（メンバーはU1安藤・飯塚・岸・小谷・藤井、U3白神）が予選2位

トーナメントで準優勝であった。

12月14日（土）県高校新人卓球大会シングルスにて、男子の部で安藤・岸がベスト32、藤井がベスト64、女子の部でU1藤原がベスト16に入った。

12月15日（日）県高校新人卓球大会ダブルスにて、男子の部で安藤・藤井組がベスト8に入賞した。

12月27日（金）全国高等学校選抜卓球大会シングルス岡山県予選会にて、男子の部で藤井がベスト8に入賞した。

令和7年1月4日（土）～6日（月）愛媛県高校オープン卓球研修会に男子が3チーム参加し、他県の強豪選手との貴重な実戦経験を積んだ。

1月19日（日）井原市卓球協会後期個人戦にて、女子一般の部で藤原がベスト8に入賞した。

《中男子バスケケットボール部》 11月10日に玉島、浅口地区交流大会が玉島東中学校で行われた。予選リーグを全勝で勝ち上がり、決勝戦へと進むことができた。

決勝戦では鴨方中学校と対戦し、58-43で勝利し昨年度に続き、優勝をすることができた。12月15日に一年生大会が玉島西中学校で行われた。予選リーグを2位

で通過し、準決勝へと進むことができた。
準決勝では里庄中学校に敗れ、続く3位
決定戦では玉島北中学校に勝利し、3位
で一年生大会を終えた。

《中女子バスケットボール部》 12月15日
に一年生大会が矢掛中学校で行われた。
予選は、4チームリーグで試合を行った。

玉島西中1―15金光学園、玉島北中28―
10金光学園となり、予選リーグを3位で
通過し、真備東中学校と対戦、勝利した。

1月18日にU14県リーグバスケット
ボール大会が、瀬戸内市立牛窓中学校に
て4チームリーグ戦で行われた。牛窓中
27―30金光学園 新田中21―19金光学園
足守中24―44金光学園となり新田中学
校と同率だったが、1位となった。

《高男子バスケットボール部》 11月16日
から2週にわたり第77回新人優勝大会バ
スケットボール大会備中区予選会が行
われた。ブロック準決勝で水島工業高校
に勝利し、ブロック決勝では総社南高校
と対戦し勝利し、ブロック優勝した。ブ
ロック1位同士での、決勝トーナメントで
は倉敷青陵高校に敗れ、一月に行われる
県大会でのシードの獲得はできなかった。
1月11日から3週にわたり第77回岡山

県高等学校バスケットボール新人優勝大
会が開催された。一回戦では、就実高校
と対戦し勝利した。続く二回戦では、今
大会優勝した商大附属高校と対戦し敗れ
た。今大会をベスト16で終えた。

《高女子バスケットボール部》 11月に第
77回岡山県高等学校バスケットボール新
人優勝大会・備中区予選会に出場し、
一回戦玉島高校に73―26で敗れた。

《高男子バレーボール部》

11月 春の高校バレー 岡山県予選会
優勝（2年連続5回目）

3回戦 金光学園2―0岡山一宮
準々決勝 金光学園2―0倉敷商
業

準決勝 金光学園2―0玉野光南
決勝 金光学園3―2岡山東商業
1月 春の高校バレー ベスト16

1回戦 金光学園2（25―19 25
―18）0郡山北工業（福
島県）

2回戦 金光学園2（25―13 25
―22）0土浦日大茨城県
3回戦 金光学園1（22―25 25
―22 17―25）2近江（滋
賀県）

岡山県高等学校新人バレーボール大会
準優勝（2年連続7回目）

2回戦 金光学園2―0
準々決勝 金光学園2―1岡山東
商業

準決勝 金光学園2―0玉野光南
決勝 金光学園0―2関
西

《高サッカー部》 高円宮杯U―18サッ
カリーグ2024 OKAYAMA チャ
レンジリーグ（後期の続き）の結果は次
の通りである。11月3日、対白陵（6―
2）・B戦（0―0）。11月10日、対高梁
（2―1）。11月16日、対林野（2―2）、
B戦（0―2）。11月23日、対美作B（4
―0）、対高梁（B戦）（0―1）。12月28
日に福山ウインターユースフェスティバ
ルに参加し、対同志社香里FC（4―1）、
対三万屋B（1―1）という結果であった。
1月2日にOB会を開催し、80名を超え
る方々の参加があった。OBの方の繋が
りでスペシャルゲストとして、U―19日
本代表の石井久継選手（湘南ベルマーレ
所属）にご参加いただき、よりいっそう
盛大な会となった。岡山県高校サッカー
新人大会備中区予選会が12月14日・15

日・1月11日・12日に行われ、対倉敷南（2
―1）、対青陵（0―3）、対鷺羽天城（6
―0）、対玉島（2―1）という結果で、
県大会出場を決めた。新人大会県大会1
回戦が1月26日に行われ、対西大寺（2
―2・延長（0―1）という結果であった。
《中剣道部》（浅口市大会 11月17日（日）
に天草公園体育館で開催され、女子個人
試合で伊藤果穂（1年）が2回戦敗退。
男子個人試合で雀部燦（3年）が3回戦
敗退。男子団体試合で1回戦敗退した。
（1・2年生大会 1月19日（日）に白
梅総合体育館で開催され、男子団体試合
で1回戦敗退。女子団体試合は金光・鴨
方の両中学校と合同で出場し2回戦敗退
した。

《高剣道部》（玉島大会）11月24日（日）
に玉島の森体育館で開催され、男子団体
試合で1回戦敗退した。

《中高剣道部》（稽古始め・寒稽古）1
月2日（木）に剣道場にて稽古始めとO
B・OG会を行い、先輩方と快い汗を流
した。同時に「厳寒に鍛える」という目
標で寒稽古を行い6日（月）に納会を迎
えた。高島寛希（中学1年）が皆勤であつた。
《送別稽古会》 1月23日（木）にタイヨ

入賞おめでとう

▼第70回青少年読書感想文 岡山県コンクール

【中学】
県入選……中3 生藤 紗々

県佳作……中3 杉本真莉彩
中2 原田 可南
中1 板野 絹

中2 西山 心和
中1 柚木 柚七
大城希来里

【高校】
優秀賞……高2 西山 和志
入選……高1 天野 花菜

▼第20回IPA「ひろげよう情報
セキュリティコンクール」
標語部門
優秀賞……高1 石倉 和佳

学園だより

進路委員会

12月2日～3日、高3

では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。12月5日に高1で、6日に高2で、それぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

ウィンターチャレンジ

12月25日～27

日の3日間を予定していたが、インフルエンザ感染拡大のため25・26日の2日間、高校1・2年の特進クラスと総進クラスの希望者が参加し、実施した。

中学入学試験（教科型）

1月4日、

103名が受験した中学入試（教科型）が行われた。合格発表は8日に行われ、専願合格者は1月17日までに手続きを完了した。2月11日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

街頭交通指導

毎月1日は生活課の教

員が、またその他にも定期的に学年団の教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

始業式

1月8日、3学期始業式がオ

ンライン形式で行われた。校長式辞・高

3生徒（神谷深くん）の決意表明・留学生の挨拶・生活課よりの諸注意があった。

高校県外入学試験

1月12日、県外の

中学生を対象とした一般入試（専願・併願）が行われ、26名の中学生が志願した。15日に各中学校宛てに選考の結果が通知され、専願合格者は17日までに手続きを終え、2月11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。

中2進路学習

1月14日、特別進学ク

ラス推進委員会委員長が中2に向けて、大学での学び、大学進学に向けての学校生活、難関大を目指す意義などを話した。

大学入学共通テスト

1月18日・19日

に実施された大学入学共通テストには、高3生徒115名が出願し、岡山大学、岡山商科大学、くらしき作陽大学の3会場で受験した。

高校入学試験

1月23日に推薦入試

（専願）と3教科入試（専願・併願）が同時に行われ、それぞれに22名、57名の中学生が志願した。29日に各中学校宛に選考の結果が通知され、専願合格者は2月6日までに手続きを終え、11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。

中学生徒会長選挙

1月24日に行われ

た来年度の中学生徒会長選挙の結果、会長には2年の田中幸太郎くんが、副会長には2年荒木悠くんと1年の黒田あこさんが選ばれた。

中1読書会

1月28日、中1が読書会

を実施した。

ロードレース大会

1月29日、中学校

全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

学校保健委員会

1月31日、校医、や

つなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。田中眼科医院院長田中克樹氏から「目の健康について」の講演をしていただいた。

高校生徒会総会

2月7日、2024

年度第2回高校生徒会総会がオンラインで実施された。今年度の各種委員会・代表者会議・執行部活動の総括が行われた。

中3グローバル研修

2月9日～18日、

中3オーストラリアグローバル研修が実施された。研修のまとめとして、3月12日4限に、兄弟学級報告会が行われた。

さらに3月15日の4限に、学年報告会が

行われた。

高2芸術選択者発表会

2月15日、音

楽選択者は練習の成果を演奏会で発表した。また、15日～3月18日の間、美術選択者と書道選択者がそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

卒業式

2月28日、第77回高校卒業式

が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、166名の生徒が学園を巣立った。

米国外交官によるオンライン授業

2

月14日、高1～2年の特進クラスを対象に、米国外交官によるオンライン授業が行われた。外交官の仕事内容の紹介ややりがい、英語を学ぶ大切さなどについての講演をしていただいた。

中1合唱発表会

2月18日、やつなみ

保護者会として中1による合唱発表会 Singing 輝け！今も未来も！が開催された。有志によるオーブニングダンスの後、各クラスが選んだ合唱曲を披露した。

高1人権学習

2月21日、高1が人権

学習として『未来への絆／ハンセン病問題に学ぶ』のDVD鑑賞を行い、ハンセン病問題について学んだ。

卒業式

2月28日、第77回高校卒業式

が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、



166名の生徒が学園を巣立った。

◆教主金光様のおことは

われわれは生活の上で、常にあらゆる人や物のお世話になっています。

お世話になるすべてにお礼を言う、感謝の心を土台にして、ここから先、それぞれの願いに沿っておかげを頂かれますよう、お祈りいたします。

本日は、おめでとうございます。

教室の窓から

子どもがスマホばかりで……という相談が多い1年だった。参観授業の後の学級会でも、話題の中心はスマホやタブレット、ゲームとの付き合い方だ。

聞いてみると、どのご家庭でも使い過ぎないようにルールが設定されており、管理しようという意志が見られる。それでも、ルールや声かけがなければ延々とスマホを見続けることが悩ましい。ずっと勉強しろとは言わないが、読書とか何か作るとか自分からスマホを離れて違う楽しみも見つけて欲しい……。

我が家も同じです、と答えにならない感想をつい述べてしまう。うちの息子も家に帰ればすぐゲーム機でゲームかユーチューブ、という少年である。こんな様子で大丈夫か、いや大丈夫じゃないと日々葛藤している。あの手の手を考えるものの、スマホから離れる時間の確保は当面の課題だ。

しかし、今の子どもたちがデジタルに強いのも事実。数年ぶりに中学生を担任しているが、

発表のスライド作成が中1でも上手なことに驚いた。体育会のダンスは、「家で動画を見て覚えました」と何人かが作文に書いていた。生徒会長選挙でも、写真を合成して見事なポスターを作ってくる生徒がいる。「合唱コンクールで歌う歌を……」などと言おうものなら、すぐにパソコンで調べて曲を流す。最新から懐メロまで守備範囲は広い。「先生はどの世代ですか？美空ひばり？」「そんな古くないわー」「あ、じゃあピンクレディ。……日々、大量の情報を吸収し処理している生徒たちは、頭の回転や切り替えも速い。この先、スマホばかりに偏ってはだめだと自分で気づけば、若い世代なりの対処法で切り抜けていくのかも、と希望を持ちたい。ところで、明治時代には大衆小説はあくまでも娯楽であり、そんなものを読むなど言われる対象だった。昭和・平成世代は、親の目を盗んで漫画を読んだ人も多いだろう。今や小説や漫画の地位は向上し、子どもたちに読んでもらいたい作品がたくさんある。今の子どもたちは、将来自分の孫に向かって「そんなものはっかり見て！わしらが中学生のころはユーチューブばかり見とったのに……。」という日が来るのだろうか。私には想像もつかない「未来」である。

編集後記

2月1・2日にかけて鳥取市で行われた、放送部の中国大会（詳しくは「活躍おめでとう」にて）に引率しました。アナウンス・朗読・オーディオメッセージ・ビデオメッセージの4部門で競い合う大会では、「伝える」ことに対する生徒たちの半端ない熱量を感じました。上位者同士の戦いになるほど僅差になる表現力。そこで頭一つ分抜け出す発表や作品には、「個性」という一言では片付けられない「何か」がありました。どのような形であれ、自分の思いが相手に「伝わる」ことには限りない喜びがある。「報道・放送」の意義が図らずも見つめ直されている今、この大会に参加できたことを嬉しく思いました。

令和7年3月11日印刷
3月17日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

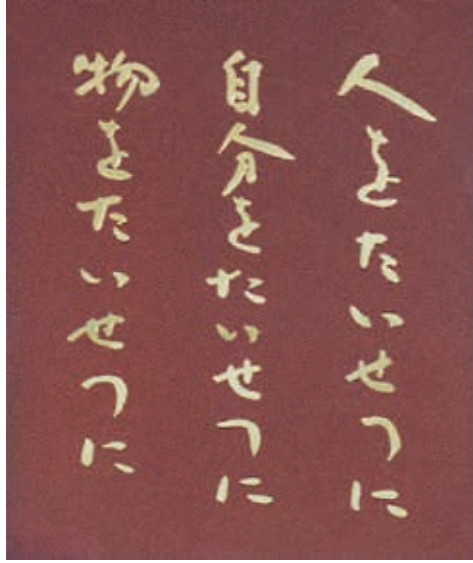
倉敷市船穂町船穂二〇九五―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

中学体育会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。



homepage



facebook



Instagram

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<https://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net